

平成27年度 水源環境保全・再生市民事業支援補助金
実績報告書

①	特定非営利活動法人 伊勢原森林里山研究会	1
②	特定非営利活動法人 ウッドボイス	2
③	特定非営利活動法人 海の森・山の森事務局	3
④	海老名里山づくりボランティア山仕事の会	5
⑤	小田原山盛の会	6
⑥	特定非営利活動法人 神奈川県環境学習リーダー会	9
⑦	特定非営利活動法人 かながわ森林インストラクターの会	11
⑧	特定非営利活動法人 相模原こもれび	13
⑨	特定非営利活動法人 四季の森里山研究会	14
⑩	特定非営利活動法人 四十八瀬川自然村	15
⑪	自然保護団体 Bond-Making Action	17
⑫	特定非営利活動法人 しのくぼ	19
⑬	特定非営利活動法人 篠原の里	20
⑭	特定非営利活動法人 自遊クラブ	21
⑮	湘南二宮・ふるさと炭焼き会	22
⑯	特定非営利活動法人 丹沢自然学校	24
⑰	丹沢森林環境研究所	25
⑱	戸川森づくりの仲間	26
⑲	なかい里山研究会	29
⑳	中津川仙台下クラブ	30
㉑	特定非営利活動法人 日本の竹ファンクラブ	31
㉒	特定非営利活動法人 ファームパーク湘南	33
㉓	森のなかま	35
㉔	森のなかま2012	37
㉕	特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会	38
㉖	湯河原森のなかま	39
㉗	特定非営利活動法人 よこはま里山研究所	40
㉘	特定非営利活動法人 楽竹会	43

事業結果報告書

事業名	強度間伐・落葉高木植樹・混交林化のめざすもの—生き物共生の森 /
団体名称	NPO 法人伊勢原森林里山研究会 /
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から / 平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	伊勢原市日向 /
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>(目的) 平成 28 年度に終了するシカと森林の一体管理施作による頭数管理を前にして、シカと森林の等しく共生する森林空間の創設をめざす</p> <p>(目標) 調査エリア 0.27ha は混交林化に向かう強度間伐と植樹、植生保護柵設置を終了したが、これはモザイクの一部に過ぎず残りの 2.03ha に 2~3 か所にモザイク状混交林を創設する。</p> <p>(計画)</p> <ol style="list-style-type: none"> ① ブロック A の植生保護柵破損個所交換、暗視カメラ設置、柵の一部開放 ② ブロック C の横列状強度間伐、集材を行い一部ブロック B の植樹地の土留柵に活用 ③ ブロック B の崩壊地アブラチャン、タブノキ、シロダモ伐採、土留柵敷設、作業路敷設、開空度、照度検討、境界スギ大径木伐採 ④ 参加型植樹を 2 回連続実施 ⑤ 次年度に向けた混交林構想実現に向けたモザイク状ブロックの設定 ⑥ 既存コンテナの移設による機器管理 	
<p>【事業の成果】(結果) 2.31ha の内 <u>2.03ha</u> 整備完了。(会員延べ人数 <u>272 人</u> 会員外 <u>212 人</u>) (実施状況写真参照)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ヒノキ間伐材を製材しブロック A の植生保護柵破損修繕後暗視カメラ設置、柵の一部開放した。(10 月) 暗視カメラ設置位置に再考が必要。ニホンジカ行動学習が持越し課題。 2. ブロック B の崩壊地アブラチャン、タブノキ、シロダモ伐採、土留柵敷設、作業路敷設、開空度と照度を検討、境界スギ大径木を更に伐採し、植樹に備えた。 3. ブロック C の横列状強度間伐により北斜面のブロック B の開空度が飛躍的に増大したためブロック C の植樹化を中止しブロック A との間の 20m の裸地をシカ誘導の遊休地とした 4. 植樹済のブロック D に植生保護柵を設置、下層植生の保護を見守った。 5. 参加型植樹を 2 回連続実施 2 団体(延べ 36 名)が参加した。前年度の植樹とは異なる経路作り、シロダモの優先種を間伐し稚樹の保育を図る等、今後の方向性を図るメニューにより参加者の森づくりへの関心が増大した。 <p>【次年度の課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 混交林は単に 50%間伐と植樹ではなしえない。次年度 C ブロック完了後この間の活動を CD 化し、混交林を目指す森の仲間たちと情報交換を図りたい 2. 次年度は製材機ロゴソールを林内に設置し板材化と地域の特産品売り場に貢献予定だが有効活用の一部に過ぎない。残材チップによるチップボイラーの導入による足湯、仮設ドラム缶風呂により週末ワークキャンプの参加者数の増加を図り都市と中山間地の交流を活性化したい。 3. 地域の要望に取組み事業開始が遅れたが、果樹園に隣接するヒノキ林帯状間伐は本事業との関連性が深い猿害対策である。森林伐採、農林産物、機器レンタル等で年々事業収入が得られるようになり、新分野以外は自主財源で賄えるようになった。 <p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

事業結果報告書

事業名	チェンソーアート・木工製品普及事業
団体名称	特定非営利活動法人ウッドボイス
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	神奈川県足柄上郡山北町玄倉 491-1 町立丹沢森林館周辺 神奈川県足柄上郡山北町山北 1870 NPO 法人ウッドボイス工房他
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>輸送コストの問題から森林内に放置されている地元産の間伐材を木彫作品、木工製品として有効活用することで森林環境を促すと同時に、ワークショップを通して県民に森林整備の大切さを理解してもらうことを目的とする。具体的にはチェンソーアートと木工製品開発という 2 つの事業を柱に活動を行う。前者は県内の各所にチェンソーアートを展示し、未経験者でも始められるチェンソーアートのワークショップを開講する。また後者は県産材を使用した地域独自の商品開発や、親子で楽しめる木工教室の開講などを行う。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>○チェンソーアート展示事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受注商品として南足柄市局真会谷川道場モニュメントのチェンソーアートの作品を制作しました。 ・平成 27 年 7 月 20 日(月)～26 日(日)の期間、平塚花菜ガーデンでチェンソーアートの展示を行い、約 500 名の方にご来場いただき森林整備の大切さと共に楽しんでご観覧いただきました。 <p>○チェンソーアートワークショップ高度化事業</p> <p>当初の計画どおり間伐材を利用したチェンソーアートワークショップとして、山北町立丹沢森林館でスタディーコース・フリーコースの 2 種類の計画を実施。</p> <p>最終実績</p> <p>スタディーコースワークショップ計画 24 回に対し 実績 38 回 (参加者数 44 名)</p> <p>フリーコースワークショップ計画 24 回に対し 実績 19 回(参加者数 19 名)を行いました。</p> <p>間伐材の使用量は、スタディーコース 1 回当たり 1 m³使用 小計 38 m³ フリーコース 2 回で 1 m³使用 小計 9.5 m³ 展示会用作品の制作時に使用した量 5 m³ 全体の合計 52.5 m³</p> <p>また、NPO 法人ウッドボイスによる森林ボランティアを開催しワークショップ参加者も多く参加し間伐を行いました。平成 27 年 7 月 4 日(土)参加者 5 名その他、ワークショップの開催日の最初に間伐を行う。1 月 24 日(日)、2 月 14 日(日)</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	子どもたちへの水育「かながわの滝探検ツアー」
団体名称	NPO 法人海の森・山の森事務局 / *
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 20 日まで /
実施場所	塩川の滝 (愛甲郡愛川町)、牧馬小滝・牧馬大滝・エビラ沢の滝 (相模原市緑区)、道志ダム、雄滝・雌滝 (道志村)
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>貴重な水資源を大切に使うためには、自分たちの使う水道水の水がどこからくるのかを知ることが大切。神奈川県の水源の水に親しみ、水のクオリティーの高さ、その自然環境の豊かさを実感することで、参加者が水源環境保全の重要性を学び、自ら環境を守る意識を持つことを目的としたツアーを実施します。この年度 6 回のツアー実施を予定していますが、各回終了後、連携のある NPO が運営するカフェまたはレンタルスペースにて、ツアー報告会を開催し、ツアー時の VTR を楽しみながら、水を大切にするためのショートビジュアルトークショー (講演) 等を盛り込みます。同補助金活用事業であることの PR は、ツアー開催時、またツアー報告会やツアー説明会などでも、参加者に伝えて行きます。さらに Facebook には活動内容と補助金活用活動である PR を毎掲載せるとともに、この事業専用のホームページ http://taki-tour.jimdo.com にも掲載します。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>当初の計画では、マイクロバスを使用して、20 人前後を連れて行くツアーを 6 回計画していたが、滝探検ツアーそのものの認知度が初年度では薄く、規模を縮小し、少人数でのツアーを展開させました。年度内ツアー 9 回開催し、参加者 52 名 (内子ども 14 名)。</p> <p>4/29 (日) 参加者 5 名 (内子ども 0 名) 牧馬小滝、牧馬大滝、道志ダム、雄滝、雌滝へ。沢ではゴミ拾いも行ない、参加者は水源環境保全の必要性を実感しました。</p> <p>5 月は天候悪く予定日に開催できず。</p> <p>6/14 (日) 参加者 6 名 (内子ども 2 名) 塩川の滝、牧馬小滝、牧馬大滝、道志ダム、エビラ沢の滝へ。沢ではゴミ拾いも行ない、参加者は水源環境保全の必要性を実感しました。</p> <p>7/12 (日) 参加者 7 名 (内子ども 3 名) 塩川の滝、牧馬小滝、牧馬大滝、道志ダム、エビラ沢の滝へ。沢ではゴミ拾いも行ない、参加者は水源環境保全の必要性を実感しました。</p> <p>8/2 (日) 参加者 5 名 (内子ども 2 名) 塩川の滝、牧馬小滝、牧馬大滝、道志ダム、エビラ沢の滝へ。エビラ沢では湧き水をいただき、神奈川の水のクオリティーの高さを実感しました。</p> <p>9/6 (日) 参加者 7 名 (内子ども 3 名) 牧馬小滝、牧馬大滝、エビラ沢の滝へ。エビラ沢では湧き水をいただき、神奈川の水のクオリティーの高さを実感しました。帰りに道志の湯も寄り、道志村と横浜市のつながりの深さを知りました。</p> <p>9/20 (日) 参加者 6 名 (内子ども 2 名) 牧馬小滝、牧馬大滝、エビラ沢の滝へ。エビラ沢では湧き水をいただき、神奈川の水のクオリティーの高さを実感しました。帰りに道志の湯も寄り、道志村と横浜市のつながりの深さを知りました。</p> <p>9/28 (月) 参加者 5 名 (内子ども 0 名) 塩川の滝、牧馬小滝、牧馬大滝、エビラ沢の滝、雄滝、雌滝へ。エビラ沢では湧き水をいただき、神奈川の水のクオリティーの高さを実感しました。帰りに道志の湯も寄り、道志村と横浜市のつながりの深さを知りました。</p> <p>10 月は天候悪く予定日に開催できず。</p> <p>11/29 (日) 参加者 4 名 (内子ども 0 名) 塩川の滝、牧馬小滝、牧馬大滝、エビラ沢の滝、雄滝、雌滝へ。エビラ沢では湧き水をいただき、神奈川の水のクオリティーの高さを実感しました。帰りに道志の湯も寄り、道志村と横浜市のつながりの深さを知りました</p> <p>12 月は天候悪く予定日に開催できず。</p> <p>1 月は天候悪く予定日に開催できず。</p> <p>2/28 (日) 参加者 7 名 (内子ども 2 名) 塩川の滝、牧馬小滝、牧馬大滝、エビラ沢の滝、雄滝、</p>	

雌滝へ。エビラ沢では湧き水をいただき、神奈川の水のクオリティーの高さを実感しました。帰りに道志の湯も寄り、道志村と横浜市のつながりの深さを知りました

また、年度内中の開催において、また今後の開催においても広報活動の重要性を認識し、メディアに積極的にでていきました。

FM ヨコハマの人気番組「The Burn」には3回生出演しました。そのうちの1回は、番組収録を滝ツアー現場で行ない、それを流しながら番組で当 NPO 理事長と DJ の井手大介氏とのトーク番組となりました。

CS 放送の超人気釣り番組「五畳半の狼」に生出演し、滝探検ツアーの告知も行ないました。横浜市内のインターネットテレビの番組「AGORA 横濱放送局」に生出演し、滝探検ツアーの告知も行ないました。

アウトドア雑誌「ガルヴィー」12月号(実業之日本社)の取材を受け、カラー2ページ見開きで、滝探検ツアーが大きく紹介されました。

また、写真展やイベントの際に、滝探検ツアーの説明会を開く、チラシを配布するなどを積極的に行ないました。

5/14～6/22 キヤノンギャラリーSにて写真展開催。開催期間中、滝探検ツアー参加者募集のチラシを配布。

5/16(土) 同写真展会場内でビジュアルトークショー開催。その際に滝探検ツアーの説明会も行いました。参加者 40名

5/30(土) キヤノンホールSにてビジュアルトークショー、ビジュアルコンサート、デジタル紙芝居を開催。その際に滝探検ツアーの説明会も行いました。参加者 300名

6/6(土) 同写真展会場内でビジュアルトークショー開催。その際に滝探検ツアーの説明会も行いました。参加者 40名

6/13(土) 同写真展会場内でビジュアルトークショー開催。その際に滝探検ツアーの説明会も行いました。参加者 40名

6/20(土) 同写真展会場内でビジュアルトークショー開催。その際に滝探検ツアーの説明会も行いました。参加者 40名

8/4(火) 厚木市の日産自動車 NATC(先端技術開発センター)にて、ビジュアルトークショー開催。その際に滝探検ツアーの説明会も行いました。参加者 100名

10/10(土)～10/13(火) 西武東戸塚店において、神奈川県および一般財団法人セブン・イレブン記念財団との共催にて写真展「かながわ・よこはまの水の輪廻」開催。神奈川の滝の写真を展示するとともに、その際に会場にて滝探検ツアーのチラシ配布。参加者 1,000名

10/11(日) 同会場にてビジュアルトークショー開催。その際に滝探検ツアーの説明会も行ないました。参加者 60名

11/15(日) 武蔵小杉のユニオンビルにて、「Climate Action 気候変動エネルギー」シンポジウムが開催され、協力参画。滝探検ツアーの説明会を行ない、参加者も募集した。参加者 60名

11/21(土)～11/22(日) 川崎市教育文化会館にて開催されたミュージカル「水のまもりびと」に協力参画。会場にて、こどもと保護者に滝探検ツアーのチラシを配布し、参加を募った。参加者 800名

11/22(日)～11/23(月) 都筑区中川のハウスクエア横浜の大ホールにて、写真展「神奈川・横濱の水物語」開催。滝の作品を展示し、滝探検ツアーの説明会も開催した。参加者 80名

3/19(土) 世田谷の「せたがやものづくり学校」にて、ビジュアルアロマコンサート開催。同会場にて、滝探検ツアーの説明会を開催するとともに、参加者募集を募りました。参加者 60名

【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

平成 27 年度事業結果報告書

事業名	市民事業高度化支援部門 森林の保全 再生事業
団体名称	海老名里山づくりボランティア 山仕事の会
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 12 日まで
実施場所	海老名市内 1. 上今泉 781-1 他 2 筆 2. 杉久保 1580 他 13 筆他含め計 31,929.5 m ² (3,192.95ha)
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>海老名市内の豊かな自然、風土、文化の変容に対して、「里山の保全」等の事業を地域に暮らす人たちと共に行い、健全な景観を市民共有の財産として形成し増進すると共に森林資源の持続的な活用を推進いたします。森林の荒廃に歯止めを掛けるには、枝打ち、間伐、下草刈り等地域の特性に応じた森林再生保全作業を継続的に実施することが大切で、これにより水源涵養の公益的機能が発揮できる森林「緑ダム」機能を高め水源環境保全・再生に寄与します。平成 27 年度も継続して申請地区の保全整備を事業目的とします。計画は 4 月 1 日から翌年 3 月 31 日迄の毎月 3~4 回毎月曜実施、但し 7 月~9 月上旬迄夏季休。計画年間延べ 30 日間/630 名参加予定とし、</p> <p>1. 実施場所: 上今泉地区: 杉久保地区 2. 主な作業内容: 高木の枝打ち: 間伐: 倒木切断処理: 下草刈り: 地区内作業用道路、のり面補修整備等実施計画を策定いたしました。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>海老名市内に現存する里地里山の地権者は高齢化に伴い未整備で荒廃が進み不法産業廃棄物等投棄場所化となり、当該地区の里地里山からの雨水・湧水・地下水等が 1 級河川永池川に流入し 1 級河川相模川へ接し寒川堰から水道水となります。森林再生保全整備を実施することにより森林の荒廃に歯止めを掛け、水源涵養などの有効な機能「緑のダム」発揮することで、良質な水資源の確保上からも森林保全整備活動を継続的に実施することが必要です。また、地区内の良好な環境(不法投棄ゼロ)豊かな里山景観維持保全。大気汚染、地球温暖化など森林の持つ機能「緑のダム」維持保全を図ることが出来ました。また、周辺住民からは不法投棄がなくなり景観が良くなったとの言葉を頂きました。(作業地承諾は・申請書土地所有者承諾書参照)</p> <p>1) 4 月 1 日~3 月 16 日(8~9 月夏休)計画 34 回荒天 6 日実作業 28 日述 437 名(全会員)15.6 名/回 2) 6 月 1 日~11 日海老名市環境フェスティバル、ポスター掲出参加 3) 7 月 24 日杉久保小学校クラフト制作出前講座 6 名参加 4) 7 月 25 日第 6 回みずきフェスティバル(社家)参加里山クラフト 200 名来場・ポスター展示 5) 7 月 28 日杉久保小学校クラフト作製出前教室開催 7 名参加 6) 8 月 24 日シュレッター-定期整備(外注)チェンソー、刈払機等自家整備 7) 8 月 30 日~31 日一泊夏季自主研修、「あしがら温泉」12 名参加 8) 10 月 18 日市催事「むかしまつり」参加クラフト作製&展示 9 名参加 9) 11 月 17 日みどり実践団体交流会研修会参加 4 名 10) 11 月 22 日市大谷コミセン祭クラフト制作展示 7 名参加 11) 2 月 6 日杉久保小学校、学校林整備 8 名参加 12) 3 月 6 日生きがい塾相談会、パネル展示新規会員勧誘 13) 3 月 6 日平成 28 年度補助金第二次審査プレゼンテーション 2 名出席 14) 3 月 12 日森の楽校主催里山体験実習 30 名参加へ技術指導支援実施 15) 平成 27 年度実績、実稼働 28 日延参加 437(全会員)15.6 名/回、作業延面積約 83,000 m²実施 15) 作業現場「しずくちゃん」ロゴマーク入りの「のぼり旗」を掲出し「もり・みず市民事業支援補助金」の PR を実施した。</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p> <p>無し</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	「箱根外輪山におけるニホンジカの食性の季節性、ならびに矮性化する低木の分布調査」
団体名称	小田原山盛の会
実施期間	27年 4月 1日から 28年 3月 21日まで
実施場所	箱根山系外輪山東部、東北部、内輪山(一部)、小田原市の里山
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>箱根山系のシカの食性を調べながら過食圧による植生劣化状況、林業被害、農業被害などを、全 25 回の現地調査によって明らかにする。行政(環境省・県・市町村)や地域住民、捕獲者等に科学的な情報提供を行い、シカ対策に貢献することで、植生劣化域の広がりを未然に防ぎ、水源林としての機能を保全し、健全で豊かな森林生態系を守る事を目的としている。</p> <p>具体的には、箱根外輪山東部東北部を中心に、採食痕、枝おり、糞、ぬたば、剥皮、deerline の形成、矮性化する低木などの生活痕の分布からシカの分布状況、下層植生の劣化地域を明らかにする。また調査メンバーは会員に限らず門戸を広げ、シカの生活痕の観察を通して、森林の植生や生物間の関わり、生態系を学び、地域の自然を自ら守る人材を育成していく。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>平成 27 年 4 月 9 日～平成 28 年 3 月 21 日までに 30 回の調査を実施した。</p> <p>調査が進むにつれ、箱根エリアのシカ害が想像以上に進んでいる事が明らかになった。各方面への呼びかけを行った結果、捕獲個体の提供があり、当会会員の獣医師による捕獲個体解剖を行うことができたこと、さらには地域の捕獲実施者による自動カメラの撮影データ提供、大学関係者など部外学者の参加協力もあり、多彩なメンバーによって箱根のシカ害の状況を明らかにすることができた。</p> <p>箱根エリアはシカの分布拡大防止域とされ、個体密度が低いと見なされているが、シカがキーストーン種となり、下層植生の退行に始まり、林業被害が広がっていることが明らかになった。早急にシカ対策を進める必要があることが分かった。</p> <p>そこで、8 月には、過食圧のかかる現地において、視察観察会を実施し、まだ知られていない箱根のシカ害を、行政関係者を交え、多数の参加者に紹介することを行った。調査結果は随時行政や森林所有者に知らせ、情報を共有するために、報告書のダイジェスト版として「箱根のシカ対策」三部作の冊子を作成し、関係者に配布した。</p> <p>シカ害初期段階のデータは乏しく、当会の調査によって、ササよりも先にアオキが退行する状況が明らかになり、実際に里山地域や内輪山側の鳥獣保護区のアオキの退行を観察する事ができた。シカ対策をいろいろな視点から進めるために、植物の劣化を指標とする取り組みも今後の重要な課題にできることが分かった。</p> <p>尚、当初予定しておりました調査回数は 25 回でしたが、来年度の調査項目の一つにアオキの採食を模した退行調査があり、シカによるアオキの採食は冬期の為、年度中に試験地の設定と、摘葉処理が必要となり、合計 30 回の実施となりました。全 30 回の調査報告と、それによって作成した植生劣化地域の図面、日程外の会員による調査、捕獲個体解剖所見、会に連携して頂いている捕獲協力者による自動カメラ撮影状況(当会が行政に連絡、広報しています。)など、総集編として CD 版に編入し、関係者に配布予定です。</p> <p>添付資料</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全 30 回の調査報告総集編 CD 版 ・冊子「箱根のシカ対策」森林編暫定版・里山編・仙石原編(提出済み) ・冊子「8.28 ニホンジカ過食圧地を見る視察・見学会」(提出済み) ・これまでの事業経過 	

これまでの事業経過 小田原山盛の会シカ調査 2015年4~9月

上半期 各ルートにてシカの生活痕跡、植生矮性化調査、及び花暦(マルハナバチの訪花)の記録を実施した。

回数	日付	シカ調査ルート・備考	参加人数	会員	会員外	講師
	4.7	シカ情報聞き取り石綿氏宅訪問(川島) 資料添付		1		
1	4.9	小田原市和留沢・坊所・久野調査 午前中、和留沢わくわく村にて視察会(3名)、午後調査。	10	7	2	1
2	4.19	小田原市坊所・神静民報付近調査 午後から神静民報記者1名取材参加。	12	7	4(内、記者1)	1
3	4.26	南足柄市檜山林道調査	6	5		1
4	5.10	火打石岳～檜山林道調査 農大学生、教授他が参加。	13	5	7	1
5	5.21	小田原市伐開地～南足柄市檜山林道	5	4		1
6	5.31	明神ヶ岳調査	9	8		1
7	6.7	宮城野調査 農大学生、箱根地区住民が参加。	12	6	5	1
8	6.18	檜山林道金時工区調査	7	6		1
9	6.21	宮城野林道周辺調査	9	5	3	1
10	7.2	朝、環境省箱根事務所で情報収集 宮城野城址・堰堤・春山荘周辺調査	5	4		1
11	7.12	檜山林道・火打石岳調査	10	6	3	1
12	7.26	明星ヶ岳調査	5	4		1
13	8.9	冷水河原林道(上部) 調査	8	7		1
	8.26	視察見学会のため下見(川島)		1		
14	8.28	二ホンジカ過食圧地視察見学会 (檜山林道・火打石岳) 行政・関係機関(19名・県有林立会い2名含む)一般7名 名簿・資料添付	33	8	24	1
15	9.6	久野林道・冷水河原林道(下部) 調査	9	5	3	1
	9.13	中止				
16	9.24	矢作芝・久野林道塚原線・大崩壊地・全国植樹祭・暗闇沢調査	6	4	1	1
16回		上半期合計 延べ人数	159人	91調査(93)人	52人	16人

参考資料 植生劣化域ルートマップ

下半期

回数	日付	シカ調査ルート・備考	参加人数	会員	会員外	講師
17	10.4	足柄林道調査 (シイ・カシ帯)	6	4	1	1
*	10.12	仙石原調査 (柏木単独)	*	*	*	*
18	10.15	矢倉沢・塔の峰調査 午後、環境省主催箱根シカ検討委員会にて当会調査報告(古林・川島発表、その他メンバーは傍聴)	6	4	1	1
19	10.22	明神ヶ岳北面調査(奥の院&北面ルート)	9	4	4	1
20	11.5	一の沢林道・桧山林道調査 (南足柄市 剥皮害調査)	8	5	2	1
21	11.12	塔の峰青少年の家周辺・久野県行造林地内 (小田原市 剥皮害調査)	12	5	6	1
22	11.19	宮城野モミソ尾・塔ノ峰調査 (箱根町・小田原市 剥皮害調査)	8	4	3	1
23	11.29	仙石原調査	9	5	3	1
24	12.3	坊所から神静民報調査・農業被害視察 小田原市環境保護課 2名視察・東京農大 2名参加	10	3	6	1
25	12.6	仙石原調査	7	5	1	1
*	12.9	仙石原にて神奈川新聞の取材(川島・柏木)	*	*	*	*
26	12.13	神静民報から放射状伐採地調査 小田原市 東京農大 2名参加	10	4	5	1
*	12.15	環境省主催箱根シカワークショップ参加 (川島・天野・柏木)	*	*	*	*
27	16.1.7	坊所周辺調査 小田原市 28年度アオキ摘葉試験地の下見	8	6	1	1
*	1.8	箱根シカ対策委員会傍聴(川島・柏木)	*	*	*	*
28	2.2	檜山林道・宮城野林道・坊所調査 28年度シカ柵設置箇所確認のため、県関係者 10数名同行	8	5	2	1
*	2.13	地球博物館にてシカフォーラム (兵頭・柏木・鈴木・遠藤・川島参加)	*	*	*	*
*	2.24	箱根シカ対策委員会傍聴 (柏木・川島)	*	*	*	*
29	2.26	丸太の森にて 28年度調査、アオキ摘葉試験地の設定 夕方からマロニエ会議室にて葉の計測準備	5	3	1	1
30	3.8	アオキ摘葉試験・葉面積測定の為の準備をマロニエ会議室で行う。午後久野調査。夕方から県地球博物館にて計測準備。	13	6	6	1
14回		下半期合計 延べ人数	119人	63人	42人	14人
30回		総計 延べ人数	278人*	154人	94人	30人

事業結果報告書

事業名	相模川支流の中津川（厚木市三田スポーツ広場付近）をフィールドとした生き物(水生生物)観察会
団体名称	特定非営利活動法人神奈川県環境学習リーダー会
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 1 月 31 日まで（計 2 回活動）
実施場所	河川の生きもの採集：神奈川県厚木市三田（相模川支流の中津川の三田スポーツ広場付近） 生きもの観察、簡易水質試験：神奈川工科大学（厚木市下萩野）
<p>【事業の目的及び目標】（計画）</p> <p>神奈川県内の小学生高学年生及びその保護者を対象とした地域住民の身近な自然である河川の生き物しらべ教室（水生生物：魚類及び水生昆虫等）及び簡易法による水質試験を実習することで、河川の役割が飲料水の水源として重要であることをアピールするとともに河川環境保全が生態多様性にとっても重要であることを体験していただくことを目標としています。厚木市内の小学生対象の教室では、平成 25 年度から神奈川工科大学の教官、学生、大学院生の協力を得て、平成 26 年度も継続し、共催の形式で 2 回開催しました。平成 27 年度も同様に、厚木市の相模川の支流である中津川で教室を開催しました。</p> <p>また、昨年度と同様、神奈川工科大学の協力による講師として大学の教授、客員教授（前任は神奈川県環境科学センター職員）の参加いただいています。化学、水生昆虫の専門家によるより高度な内容による教室づくりの体制を構築できております。多くの厚木市内の小学生及び保護者の参加が可能で、かつ専門的な内容にも応えられる教室を計画しました。</p>	
<p>【事業の成果】（結果）</p> <p>1. 生きものしらべ教室：8 月 18 日（火）及び 25 日（火）の 2 回 昨年度と同様に相模川支流の中津川における主に地域の小学生対象の生きものしらべ教室を実施しました。</p> <p>参加者：厚木市在学の小中学校生及びその保護者（延べ約 80 名）、神奈川工科大学教授及び神奈川工科大学学生・大学院生及び当会会員（延べ約 30 名）</p> <p>生きものしらべ教室の様子；観察地点は昨年度と同様の地点を大学からの距離、交通の利便性、安全面から選定しました。18 日（火）は、前日（17 日）が大雨であったため、河川での生きもの採集は中止し、大学の実験室での生きもの観察会とパックテストによる簡易法で COD 測定を行いました。25 日（火）は、当初の予定どおりに、神奈川工科大学集合、バスで中津川川原へ移動し、そこで水生生物や魚類の観察・採集ができました。大学へ戻ってから室内観察会において水生生物の種類から、水質の良否の判断ができることを講師である大学の先生から学びました。</p> <p>室内講習での COD（化学的酸素要求量）の簡易試験法を各自で実施し、コーラなど糖を含む飲料がごくわずかの量でも、COD の数値を上昇させる実験を行いました。生活排水が河川の汚染につながることや自分たちで川を汚さないようにするにはどうしたら良いかを考えるきっかけを提供しました。小学生、保護者とも生き物観察会のプログラムに熱心に取り組みました。参加者は全員が一生懸命で、川での自然体験で意義のある事業が実施できました。さらに大学生の積極的な参加による若いひとたちへのアピールができました。</p> <p>2. 学びの特徴：川の生きものへの接触や生息場所の違いなどができました。また、水の大切さと水源環境の保全の大切さをわかりやすく説明し理解が得られました。事後のアンケート調査でも、川で遊べることが分かった。あるいは、身近な川と認識できたなどの感想が寄せられました。小学生や保護者への大学教授。神奈川県の研究機関の専門家からの指導を直接受けられる機会を提供するとともに、小学生、大学生など若い世代への水質保全の重要性を認知することに貢献できました。</p>	

【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

該当する物品は、ありません。

- ※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	やどりき水源林ウシロ沢上流における間伐材を利用したシカ侵入防止策の検証
団体名称	特定非営利活動法人 かながわ森林インストラクターの会
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	やどりき水源林 ウシロ沢上流 (左岸)
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>やどりき水源林内においてもシカの食圧による植生後退と、これに伴う土壌流出は大きな問題となっている。当会の森林部会で森林整備を行っている人工林では、シカの侵入を防ぐために枝払いや玉切りをせずに放置する方法で間伐を実施し、一部をこの間伐材で囲って閉塞させた。</p> <p>昨年度は閉塞に利用する間伐材の置き方によりシカが侵入することが判明したため、今年度はシカが侵入しているかを糞塊や足跡、食痕などで確認するとともに、センサーカメラをセットしてシカの行動を確認し、閉塞方法を考察する。合わせて昨年度に設置したコドラートでの植生調査を継続実施し、閉塞内外の植生回復を比較して、この方法によるシカ侵入防止効果を検証する。</p> <p>また、同補助金を活用して行っている事をPRするため、ボランティア交流会や当会の会報「森のなかま」などで得られた知見を紹介していく。</p>	
<p>【事業の成果】(結果) 15回・41名</p> <p>6/21: 閉塞上辺の内側付近のけもの道へ向けてセンサーカメラをセットした。(1名参加)</p> <p>7/11: センサーカメラのカードを交換した。(1名参加)</p> <p>7/26: シカの痕跡調査、センサーカメラの移動および1台追加。カード交換。(2名参加)</p> <p>8/9: 昨年設置のコドラート4か所の植生調査をした。カメラのカードを交換した。(6名参加)</p> <p>9/6: シカの当該エリア内の痕跡調査、センサーカメラのカードを交換した。(1名参加)</p> <p>9/22: カメラの映像確認後、侵入箇所の計測と閉塞補強を数か所した。カード交換。(7名参加)</p> <p>10/17: シカの当該エリア内の痕跡調査、センサーカメラのカードを交換した。(3名参加)</p> <p>11/8: シカの当該エリア内の痕跡調査、センサーカメラ1台追加、カード交換(1名参加)</p> <p>11/23: シカの当該エリア内の痕跡調査、センサーカメラのカード交換。(1名参加)</p> <p>12/10: センサーカメラのカード交換のみ。(1名参加)</p> <p>12/14: アミュー厚木にて、これまでの映像を確認し、今後の活動を話しあった。(7名参加)</p> <p>12/20: 23日の活動に向けて、閉塞内外の痕跡を確認、センサーカメラカード交換。(1名参加)</p> <p>12/23: 閉塞補強をした。(6名参加)</p> <p>1/11: 閉塞補強後の閉塞内外の痕跡を確認、センサーカメラカード交換。(1名参加)</p> <p>2/7: 事業結果のまとめをした。(2名参加)</p> <p>8/15 の水源林の集いに、森林部会の森林整備活動紹介パネルの中で、当該補助金を活用してモニタリングを行っている事を紹介した。</p> <p>その他、当該恵エリアの1辺を森林整備活動の際に通る定着型森林づくりボランティアメンバーにより、活動中に確認できたニホンジカの日撃情報や痕跡を記録している。</p> <p>センサーカメラにより、ニホンジカの侵入する様子が確認できた。この場所を閉塞補強することで、侵入を防止できることも確認できた。植生調査では、被植率は閉塞内側の方が外側より高いが、どちらもシカの不嗜好性植物が多い。閉塞に利用している間伐材のほとんどが2009年ごろに間伐したものであり、材もかなり枯れてきている。完全な侵入防止はできないまでも、現在はある程度の侵入抑制はできているようなので、今後周辺のニホンジカの行動の違いを確認していきたい。また、面積やシカの通路などを考慮した閉塞方法を別の所で確認して行きたい。</p>	
<p>【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p> <p>該当無し</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	森林探訪
団体名称	特定非営利活動法人かながわ森林インストラクターの会
実施期間	27年 4月 1日から 28年 3月 31日まで
実施場所	松田町シダンゴ山
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>現在の日本に生活する人々は都市に生活する人も、地方に生活する人も森林から受ける恩恵を忘れかけています。森林には木材を生産する機能、降った雨を蓄えて浄化する水源かん養機能、二酸化炭素を吸収して酸素放出する機能など様々な働きがありますが、私たちの日常生活ではそれらを意識することなく快適な生活をおくることができます。しかしながら一旦天候不順、大きな自然災害が発生すると大きな被害をもたらします。日本の森林はかつて植林をした人工林が約40%をしめています。この人工林が枝打ち、間伐をしないでそのまま放置された状態であるのが現状です。山登りをするとき一見緑豊かな森林に見えますが、林床は土壌が流出して根っこがむき出しているのがよく見られます。このような山や森林に一般市民に関心を持っていただき、各個人でできることに参画していただけるように森林探訪を開催して自然の仕組み、生態系の重要性、生物の不思議などを解説、案内することでより関心を持っていただくことが重要である。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>今回の森林探訪は踏査10月24日、下見11月14日、22日、29日の3回実施して準備しました。本番当日は素晴らしい晴天に恵まれ、応募総数76名、実際の参加者数は66名(男32名・女34名)でした。参加者を7班に分けて実施しました。</p> <p>今回の森林探訪は水源環境保全・再生市民事業支援補助金を受けての観察会であるので水源に関する説明を重点的にするよう指導し「森林の働き」「森林の現状」「森林の機能」など“森林と水”の重要性について説明をしました。</p> <p>また観察会の道程には、虫沢林道、秦野峠林道を歩くコースが有り林道の目的や働きについて説明をして、林道を造ることにより森林資源を有効に使用することの重要性を参加者に説明するように指導をして「県民参加の森林づくり」森林整備作業にも参加していただくように促しました。</p> <p>当初は11月29日に実施計画をたてましたが、丹沢湖マラソンと重なりバスの手配が出来ませんでした。急遽12月6日に設定し直しましたが、参加者も多く大変楽しく実施出来ました。</p> <p>最後にやどりき水源林で解散しましたがアンケート結果を見ますと平成24年から平成28年までの5年間「水源環境保全税」を納めていることを40%の参加者が知りませんでした。昨年度は19%でしたので知らない人が増えてしまいました。水源を守るのは自分たちであることという意識はなく“誰かがやってくれる。”という認識であることが強く感じました。私たち森林インストラクターは機会あるごとに一般県民にアピールする必要性を感じました。</p>	
<p>【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	豊かな森づくりとその保全 森を知り、親しみ、守る
団体名称	特定非営利活動法人相模原こもれび ✓
実施期間	平成27年4月1日から 平成28年3月31日まで ✓
実施場所	相模原市木もれびの森
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>相模原市の緑地特別保全地区に指定されている「木もれびの森」は、市街地に囲まれた73haの平地林で、多くの人々が緑とふれあい、憩い、癒され、学び楽しむことができる公益性の高い貴重な森です。首都圏に残された貴重な森を将来に亘って健全に保全管理していくことは、地域の自然保護と人々の共生安寧に寄与するものと考えます。又、木もれびの森は水源林として位置づけられている森ではありませんが、適切に保全することによってこの広大な森の水源涵養機能や水質浄化機能が活かされ結果的に水源環境の保全に寄与するものと考えます。更に、自然を知り親しむことは自然を守る力になると理解していますが、多くの人々が自然に親しむ場として木もれびの森は立地条件が最適の森であり、自然観察や体験活動などの機会を提供し自然を守る意識を喚起醸成していくことが、広く水源地域の保全にも波及していくものと考えております。相模原市も、多くの人々が緑とふれあい親しむ拠点として木もれびの森を位置づけ長期を展望した保全活用計画の策定を進めており、その方針のもとでパートナーシップ協定を締結し豊かな森づくりとその存続のため当会は活動しています。現在およびこれからの目標は、従来行ってきた作業内容の充実と活性化をより以上に推進していくとともに担い手の増強と機器類の整備など体制の強化も併せて推進していき、安定した活動を継続し「気持ちの良い森」づくりに取り組んでいくことです。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>*森林の保全・再生事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 定例作業月3回 第二土曜日、第三日曜日、第四水曜日 相模原木もれびの森 12.5ha[*] 4月～通年 下刈り、間伐、除伐、林床整備 8月休止 延べ50日、536名参加[*] 散策路整備 通年随時 1回実施 31名参加 植生調査及び貴重種保護 月2回 延べ19日 延べ140名参加[*] 企業CSR活動支援(三菱電機、大和ハウス、トッパンフォームズ)年1～3回延べ209名 ボーイスカウト奉仕活動支援 年1回定例 9月 46名[*] <p>今回の補助金でヘルメットや鎌、鋸など資機材を整備したことにより、企業や外部団体の支援活動や将来の担い手である子供たちの育成活動が円滑に効率よく遂行することが出来るようになった。又、刈払い機を倍に増強したことで、従来は遅れがちで全エリアを施行出来なかった下刈り作業が、全てのエリアで年度内に終了することが出来た。尚、間伐、除伐については、従来10月～翌3月に実行していたが、枯損木や衰退木が増え、倒木や落枝の危険性が増してきたため、相模原市の方針も踏まえ年間を通じ行っていくこととなった。</p> <p>*普及啓発・教育事業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校授業協力：随時 小・中・高等学校 4校 延べ8日[*] 延べ参加者682名[*] 自然観察会4回実施 延べ参加者 41名[*] 体験活動(保全作業体験、木工クラブ体験) 8回実施 延べ参加者622名[*] 《ジュニアボランティア、若葉まつり、クレマチスフェア、エコフェスティバル、おもしろ町フェスタ、キコリ体験、公民館祭り》 イベント参加 活動紹介PR、会員募集 7回実施 延べ参加者840名[*] 《若葉祭り、クレマチスフェア、おもしろ町フェスタ、公民館祭り、市民フェスタ、相模原市地球温暖化防止フォーラム、さがみはら環境祭り》 <p>普及啓発については、自主財源が乏しかったため事業費を節約したものの、活動回数は縮小せず、地道な取り組みを続けたことにより会員の増強が得られるとともに、市民に対して水源環境の保全・再生への理解を深めてもらうことができ、これからも同様に継続して取り組んでいきたい。</p>	
<p>【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p> <p>無し</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	都市部の県民を対象とした水源環境啓発事業
団体名称	特定非営利活動法人 四季の森里山研究会
実施期間	平成 28 年 2 月 28 日(日) ✓
実施場所	横浜市緑区 神奈川県立四季の森公園 ビジターセンター会議室
<p>【事業の目的及び目標】(計画) 都市部における県民の水源環境保全・再生への必要性を理解してもらい、森林ボランティア活動に携わるきっかけづくりとなれるよう、横浜市内において水源環境の現状と必要な対策についての講演会を開催する。</p>	
<p>【事業の成果】(結果) 授業内容 1.外部講師による、かつて神奈川県内に生きていたオオカミやトキといった生き物たちをテーマに水源環境問題についてわかりやすく講演した。 2.当研究会の会員が、元猟友会としての狩猟経験を通して「かながわの水源を守る」大切さについて「ニホンジカのこと、もっと知ってください」のパンフレットを活用しながら説明した。</p> <p>(結果) ・一般募集で約 46 名が参加。朝日新聞「神奈川マリオン」に掲載された効果もあり会場は、ほぼ満席状態であった。 ・参加者は、かながわの水源環境の現状や保全・再生へ取組についてあまり知識のない方が多かった。 ・今回の講演会の開催により、丹沢の生き物たちについての知識や水源環境を守るうえで、森林の大切さや森林を手入れすることの必要性が理解され、水源環境について関心をもつ契機になった。</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

第 16 号様式(用紙 日本工業規格 A 4 縦長型)

事業結果報告書

事業名	守ろう水源の森・引き継ごう森づくり (保全・再生事業)
団体名称	NPO法人 四十八瀬川自然村
実施期間	27 年 4 月 1 日から 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	秦野市、菖蒲・柳川・三廻部
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>水源の森のエリアに属する、当地域の里山は、おおむね4、50年放置された状態です。昨今のゲリラ的な風雨での倒木も数多く発生し、水源林として危惧されます。また、放置された雑木林は獣の住処となり、鳥獣被害が頻繁に起こっています。この現状を少しでも改善すべく、保全再生に取り組み、健全な豊かな森を作り出し、安全、安心のいのちの水循環を守り、後世に引き継がなければなりません。実施にあたり主に団塊世代の方々に、ヤリガイノある社会貢献の場として参加を働きかけ現メンバーとともに取り組む予定です。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>保全・再生事業において次の成果が得られました。</p> <p>ホダキ 1 2 0 0 本・木炭生産約 4 5 0 0 キログラム・薪 1 3 m³・ 下草刈り整備 4, 6 ha・間伐 0. 6 ha</p> <p>椎茸栽培においては栽培地でのモノレールの延伸を行い、原木の搬入、椎茸収穫の効率化が図れるようになり、女性メンバーだけの収穫も容易となりました。</p> <p>活動日 7 3 日、4 1 8 名にて実施いたしました。</p> <p>今年度も数名の会員増加もあり高齢化ですが、支援をいただきながら取り組みます。</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	みんなで守ろう、水源の森 (普及啓発事業)
団体名称	NPO法人 四十八瀬川自然村
実施期間	27年 4 月 1日から 28年 3 月 31 日まで
実施場所	秦野市、菖蒲・柳川・三廻部
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>里山整備の人材確保と里山保全に対する理解と保全意識の向上を目的に事業を実施する。県による水源の森保全再生支援事業の一環として当会では里山体験活動を通して保全、再生の大切さをアピールしています。実際に里山にふれてもらうことは、現状を伝えやすく有ります。雑木の伐採・ホダキ作り・薪割り・炭焼き体験など実施します。また子どもたちに生き物教室や宿泊体験を通して、水源環境の保全・再生の必要性を伝え、県民の飲み水の原流域としての、守る責任、役割を伝えるのも会の責務として取り組みました。</p> <p>.....</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>普及、啓発事業成果は次の成果が得られました。 ホタル鑑賞会 2回約 80名・川辺の生き物観察会、約 250名・親子宿泊里山体験 20名 炭焼き体験教室、約 30名・椎茸ホダキ作り教室、約 80名 栽培椎茸販売活動・炭かご販売製品作り活動 上記活動対応を 37回 350名ほどにて実施いたしました。(準備・ふり取り等) 今後もより一層の展開を目論んでいます。 定期的に発信の出来る活動拠点の整備を進め新たな啓発活動を展開する予定です。</p> <p>別件ですが、地域の水源の森保全整備活動を通して当会の活動が評価され、協力要請を頂き地域自治会などとの連携により竹林整備や、里山散策を行いました。参加 80名</p> <p style="text-align: right;">計 44回 参加者 490名 会費 350名</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p>	

事業結果報告書

事業名	丹沢大山自然再生活動連携プロジェクト								
団体名称	自然保護団体 Bond-Making Action								
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日 から 平成 28 年 3 月 31 日まで								
実施場所	NPO 法人伊勢原森林里山研究会様及び NPO 法人四十八瀬川自然村様活動場所								
【事業の目的及び目標】(計画)									
<p>目的：①各地域の活動及び昔から保存されてきた歴史・文化・伝統を後世へ引き継いでいくことを目的として、外部への発信、特に都会に住む若者を巻き込み、都市農村交流及び自然環境の大切さ・素晴らしさを伝えて行く活動を実施する。</p> <p>②以下提携先の団体様と協働でプログラムを実施する： ・ NPO 法人四十八瀬川自然村様 ・ NPO 法人伊勢原森林里山研究会様</p> <p>1～3 月の間に各 NPO 法人様のプログラム実施担当の方と内容等の打合せを行ない、本番実施に備える。プログラムファシリテーションを Bond-Making Action 福田が担当し、各団体の体験若しくは作業プログラムは各団体の担当者にお願ひする。広報は各 NPO 法人様と、Bond-Making Action で実施する。本事業への参加は一般の方でも可能とし、都会の若者が様々な方と交流できるような仕組みにする。</p> <p>③リピーターの確保に努めるとともに、チラシや HP、Facebook 等の SNS や情報誌などで積極的に広報するなど、新規参加者の掘り起こしも行なう。 まずは、本会が丹沢大山をフィールドとして各 NPO 法人様と提携しながら活動できる地盤を整備することが必要であるため、これを目指して活動していく。</p>									
【事業の成果】(結果)									
<p>活動実施日：2015年8月、10月、11月、2016年1月、2月、3月(年6回) 対象者：神奈川県や東京都など都心部在住の20～40代・成人男女 活動内容：1泊2日のキャンププログラムとして、NPO法人伊勢原森林里山研究会様、NPO法人四十八瀬川自然村様での作業のマンパワーとなり、かつ1日目夜には交流会をもうけ、地域の方々と交流を深める。</p> <p>成果：参加者数(のべ94名) 男女比：男性 22名 女性 25名 学生/社会人比：学生 19名 社会人 28名</p>									
表1. 実施年月日、連携先、参加者数、活動内容等									
2015年度	実施年月日	連携先	参加者人数	男性	女性	神奈川県民	活動内容	スタッフ数	
	2015年8月22日～23日	四十八瀬川自然村様	9	5	4		7ブルーベリー収穫体験、炭出し作業、伐木体験	1	
	2015年10月31日～11月1日	伊勢原森林里山研究会様	6	5	1		4農作物収穫、収穫祭運営支援、伐木体験	1	
	2015年11月7日～8日	四十八瀬川自然村様	5	2	3		5農作物収穫、伐木体験、間伐材の皮剥き	1	
	2016年1月23日～24日	四十八瀬川自然村様	6	2	4		3間伐作業、枝打ち体験、伐木講習会	1	
	2016年2月13日～14日	伊勢原森林里山研究会様	6	4	2		3味噌づくり、間伐体験	2	
	2016年3月5日～6日	伊勢原森林里山研究会様	15	4	11		8味噌づくり、間伐作業、植樹	2	
			のべ94人			30人 (26人60人)	8人 (26人16人)		
			47人x2日間						

表1. 設問「都市農村交流、地域活性に興味を持つ理由」への回答・集計結果

【都市農村交流、地域活性に興味を持つ理由】 ※2015年度事業全データ集計結果

分類コード	内容	回答数
1	幼少期を思い出し、再び自然の中での活動に関わりたい	2
2	新しい出会い、場を通じて出会った仲間と共に過ごしたい	10
3	現地で学ぶ技術や知識、歴史や伝統文化などが興味深い	9
4	都市農村交流活動が里山の危機を救うと考えている	4
5	その他	1

- ・「地域の方々との交流が多く、色々なお話をうかがえてよかった」、「地域の皆さまと交流を深めることはなかなかないので、とても楽しかった」などの感想があったことから、活動に参加した際に現地で出会った地域の方々との時間が参加者にとって印象に残っていると考えられる。
⇒新しい仲間との出会いの場としても有効なのではないか。
- ・上記のような、地域の方々との交流も含めた「出会いの場」では、1泊2日の行程でお世話になるので、色々なことを教えて頂ける。その中には、伐木方法、火の熾し方、現地の地形についてなど、大きい話だと日本の林業とは？といったテーマで、実際にご経験を踏まえたお話が聞けるので、参加者はそれを良い機会ととらえ、お話を真剣に聞いていたのが印象的であった。

表2. 設問「どんな活動に参加したいか」への回答・集計結果

【どんな活動に参加したいか】

<事前>

分類コード	内容	事前	事後
1	森林整備（人工林、竹林整備）活動	15	12
2	農作物の収穫及び農作物を育てるための整備活動	16	17
3	田植え、田んぼの整備などのお米づくりに関する活動	7	11
4	鳥獣被害防止に関する活動	4	3
5	キャンプ等の野外活動	10	8
6	参加者同士のつながり、新しい仲間との出会いがある活動	14	14
7	地域の人々とのつながりや交流ができる活動	14	17
8	近い場所で行われている活動	6	5
9	交通アクセスのよい場所で行われている活動	4	1

注目すべき点として3点挙げられる。

- ①「地域の人々とのつながりや交流ができる活動」について、活動実施前のアンケートでは、14人が「参加したい」と回答したのに対し、事後のアンケートでは、17人と回答数が増えている。実際に現地NPOの方々との作業や交流会を通じて色々なお話が出来たことから、回答数が増加したと考えられる。
- ②「近い場所で行われている活動」、「交通アクセスのよい場所で行われている活動」に関しては、活動実施前後問わず、回答数は少なかった。これは、参加者にとっては実際行なわれている活動内容について重きを置いていると考えられ、都市農村交流事業として、距離の遠さや不便さは特に重要な項目ではないことがわかった。
- ③「鳥獣被害防止に関する活動」については、認知度が少ない状況であることがわかった。都心部にはニホンジカが実生を食べてしまったり樹木の世代交代が進まないことや、樹皮剥ぎの影響など、まだまだ伝えられていない問題が多いと感じられる。

事業結果報告書

事業名	中山間地の荒廃した里山保全と水源林の環境保全再生事業
団体名称	NPO法人しのくぼ
実施期間	平成27年 4月 1日から 平成28年 3月31日まで
実施場所	足柄上群大井町篠窪地区周辺
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>高齢化と後継者不足による里山および水源林の荒廃した状況を打破し、森林の水源林として再生機能の復活を目指し環境保全再生事業に取り組む。 平成27年度は、3.18haの整備面積を実施する。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>◎ 高度化支援部門 森林の保全・再生事業 平成27年度は森林の保全・再生活動として17回 延べ139人により森林の下草刈り、間伐、枝打ち作業を実施。他に特殊技能者技術料による重機による間伐作業を実施し予定面積3.18haの整備を完了した。 地主さんの協力のもと、荒廃した山林がより自然に近い状態に再生され健全な水源林としての機能を維持出来るように整備をした。 作業詳細は別紙のとおりです。</p>	
<p>【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	篠原の里 炭焼き事業
団体名称	特定非営利活動法人 篠原の里
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	相模原市緑区牧野 3759 近くの裏山
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>相模川の水源にあたる藤野町牧野地区では、個人の所有する山林が多い。雑木林や竹林、スギ・ヒノキの植林が混在しているが、いずれも近年の経済・社会状況により間伐等が必要な状態になっている。会員が協力し合って作業を行い、伐採・搬出・炭焼きを行うことで健全な森林保全を目指している。</p> <p>(目標) 会員が中心となり、会員外へも参加を呼びかけ、落葉広葉樹の伐採、搬出、炭焼き等の作業を行う。年間 5 回程度の活動を実施する。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>昨年度に伐採した木を利用し、炭焼き(計 5 回)、しいたけのホダ木づくり(1 回)を行った(参加人数延べ 37 人)。冬季は積雪の為、作業が停滞したが、2 月に伐採を実施する事が出来た(参加人数 5 人)。次年度より、林内整理及び搬出・運材をして炭焼きに利用する予定。</p> <p>焼いた木炭は、篠原の里の利用者(バーベキュー等)に提供した他、『県立藤野芸術の家』にキャンプ利用客向けの炭として販売を行った。納めた木炭は延べ 360kg となった。</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	津久井森林再生事業		
団体名称	特定非営利活動法人 自遊クラブ		
実施期間	平成27年4月1日 から 平成28年1月9日まで		
実施場所	根小屋1305-1、1384-1		
【事業の目的及び目標】(計画)			
<input type="checkbox"/> 事業の目的 津久井町根小屋にある私有林を水源涵養のため保全・再生する。			
<input type="checkbox"/> 事業の目標 0.3haの私有林を6日間、各回10人、計60人日で、森林の下刈り、間伐、枝打ちを行い、森林の保全・再生事業を行う。			
【事業の成果】(結果)			
<input type="checkbox"/> 事業実績 平成27年4月1日から、地主への挨拶等、保全・再生事業の事前準備を開始した。実作業は、平成27年5月24日～平成27年11月4日まで、計9回、実作業延参加人数69名で、0.30haの森林の保全・再生事業を実施した。			
詳細は以下の通り。			
第1回	5月24日(日)	下刈り、間伐作業	参加者 7名(会員7、会員外0)
第2回	6月13日(土)	下刈り、間伐作業	参加者 9名(会員9、会員外0)
第3回	7月11日(土)	下刈り、間伐作業	参加者 10名(会員10、会員外0)
第4回	7月19日(日)	下刈り、間伐作業	参加者 7名(会員7、会員外0)
第5回	8月8日(土)	下刈り、間伐作業	参加者 8名(会員7、会員外1)
第6回	8月16日(日)	下刈り、間伐作業	参加者 12名(会員8、会員外4)
第7回	9月30日(水)	下刈り、間伐作業	参加者 5名(会員5、会員外0)
第8回	10月28日(水)	下刈り、間伐作業	参加者 6名(会員6、会員外0)
第9回	11月4日(水)	下刈り、間伐作業	参加者 5名(会員5、会員外0)
合計			69名(会員64、会員外5)
【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】			

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	足柄上郡中井町北田地区里山再生・水資源保全事業
団体名称	湘南二宮・ふるさと炭焼き会
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	足柄上郡中井町北田字仮ガ谷 199 番地 (竹林間伐場所) 3500㎡ (0.36ha) *
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中井町北田地区の杉林の中に蔓延った竹を間伐し、太陽の光が地面に届くようにすることで下草の繁茂を促し、水源涵養機能の向上を図る。 2. 杉林の中の雑木並びに下草刈りを行い、作業環境を改善しつつ推進する。 3. 竹材の間伐によって得られた竹材の一部を有効利用する目的で竹炭の製造と竹酢液の精製が出来る様にする。このため、炭焼き広場に搬送出来る様に竹材の玉切りと集積及び廃材の整理を行う。 4. 事業の経過を当会のホームページに明記するとともに、当会が主催するイベントなどで積極的にPRする。 5. 事業を通じて参加会員の水資源保全活動に関する認識を深める。 6. 稼働回数と稼働予定は年間12回、120人日を予定 	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 該当する杉林3500㎡の竹材伐倒を終了することが出来た。26年度から2年間をかけて全てを終了した。 2. 竹材を間伐した後は日の光が入り込み下草の繁茂が確認できている。水源涵養機能の向上が図れると推測する。 3. 集積した竹材を炭焼き広場に搬送して、竹炭窯で竹炭と竹酢液を採集する作業に備えた。搬送回数は3回実施した。 4. 当会のHP並びに当会主催のイベントでは適宜事業内容をPRしてきた。 5. 本事業を通して、もりみず市民事業に関する認識を深めた旨の感想が聞けた。 6. 稼働回数と稼働実績は、14回、174人日であった。計画時の見込みに対して約30%超過したが、計画通り作業は完了した。 	
<p>【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p> <p>該当品はなし。</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	足柄上郡中井町北田地区間伐材の利用促進事業
団体名称	湘南二宮・ふるさと炭焼き会
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	足柄上郡中井町北田字仮ガ谷 199 番地 (竹林間伐場所) 二宮町一色 1 8 6 7 番地 (竹材利活用場所)
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中井町北田地区の杉林の中に蔓延った竹を間伐し、得られた竹材の一部を有効利用する目的で竹炭の製造と竹酢液の精製を行う。 2. 製造した竹炭・竹酢液を販売することにより、会の財源に充てる。 3. 事業の経過を当会のホームページに明記するとともに、当会が主催するイベントなどで積極的にPRする 4. 活動回数と稼働予定人日は48回、360人日を予定 	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 間伐した竹材は3回炭焼き広場に搬送した。竹炭の火入れ回数は5回実施。竹酢液原液の採集は210リットルを得た。竹炭は24袋を梱包した。 2. 精製した竹酢液は15回精製作業を行い、128本(500ml)を製品化した。アトピー性皮膚炎などでお困りの固定客には好評であり恒常的に購入いただいている。 3. 木炭窯の火入れ回数9回、窯出した木炭は2722kgであった。 4. 当事業の活動状況は適宜HPやイベントでPRしている。 5. 活動回数と稼働人日は66回、659人日であった。 	
<p>【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p> <p>該当品はなし。</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	水源の沢の環境教育プログラム実施事業
団体名称	特定非営利活動法人 丹沢自然学校
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 27 年 10 月 31 日まで
実施場所	西丹沢の西沢・モロクボ沢 (山北町)
<p>【事業の目的及び目標】 (計画)</p> <p>この事業は、水源の森林や沢の保全の大切さをお伝えすることを目的とし、西丹沢の源流の沢で、全身に水を浴びて沢をさかのぼるシャワークライミングのプログラムを実施するものです。丹沢自然学校では、すでにこのプログラムを、平成 20 年度から西沢、モロクボ沢で 7～8 月に実施しています。近年 3 年間では合計で 29 回実施し、参加者人数は 132 名でした。</p> <p>当該補助金を通じて、このプログラムをさらに充実させ、将来も継続して実施するための基盤整備を実施したいと考えました。そこで、プログラムの実施そのものに係る費用 (スタッフの人工費や交通費等) はこれまでどおり参加者からの費用徴取によるものとし、シャワークライミングの実施に必要な道具 (沢靴等) の更新、安全やプログラムづくりの研修会の実施、ホームページのリニューアルに、当該補助金を使用する計画としました。このことにより、補助事業の期間が終了した後も、このプログラムが継続的に開催でき、今も将来も多くの方に水源環境の大切さと素晴らしさを知っていただくことを、補助事業そのものの目標にしています。</p> <p>プログラムの実施回数はこれまでと同程度の 10 回 (小中学校の夏休み期間中の土日) とし、参加目標人数は過去よりも多めの 50 名としました。</p>	
<p>【事業の成果】 (結果)</p> <p>補助金の活用によりプログラム実施に必要な道具を購入しました (7 月 29 日沢靴を購入、8 月 12 日ライフジャケット購入)。またホームページの一部更新を行いました (6 月委託業務発注、9 月 20 日完成、9 月 30 日支払い)。なお、研修会は自然学校のメンバー内の相互講師の形で実施し、補助金による支出はありませんでした。</p> <p>これらを活用し、7～9 月にはシャワークライミングを 10 回実施し、延べ 58 名の参加者がありました。参加者数は丹沢自然学校の当該プログラムとしては過去最高で、申請時の目標 50 名を大きく上回りました。</p> <ul style="list-style-type: none"> 7 月 20 日 下見・ガイド研修会の実施 7 月 25 日 西沢にてプログラム実施、参加者 4 名 7 月 26 日 モロクボ沢にてプログラム実施、参加者 4 名 8 月 1 日 西沢にてプログラム実施、参加者 4 名 8 月 8 日 西沢にてプログラム実施、参加者 9 名 8 月 9 日 モロクボ沢にてプログラム実施、参加者 9 名 8 月 15 日 西沢にてプログラム実施、参加者 3 名 8 月 16 日 モロクボ沢にてプログラム実施、参加者 3 名 8 月 22 日 西沢にてプログラム実施、参加者 3 名 8 月 29 日 西沢にてプログラム実施、参加者 6 名 9 月 5 日 西沢にてプログラム実施、参加者 13 名 (8 月 30 日の雨天順延) <p style="text-align: right;">58 名</p> <p>これらにより、丹沢の森から流れ出る水が私たちの水源であること、水源の森林を保全する大切さを、参加者にお伝えすることができたと考えています。</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p> <p>50 万円以上の物品は購入していません。</p>	

購入した沢靴
ライフジャケット
も使用

- ※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	水源ワクワク水質調査 水源森林教室
団体名称	丹沢森林環境研究所
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 30 日まで /
実施場所	足柄上郡(山北町、松田町)、南足柄市、静岡県駿東郡小山町
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>「水源森林教室」では水源地域に直接足を運び、将来を担う子供やその保護者、さらに都市部に住む県民を中心に水源地域の現状や役割を理解してもらう。また、自然の多く残る水源地域の自然に触れ、水源地域に対する興味関心を高めてもらう。</p> <p>「水源ワクワク水質調査」ではパックテストを使った水質調査を通して人間の生活が河川環境に与えている影響や水源地域の水質が保たれているかをチェックし、実生活にフィードバックする。また、調査結果を「水源森林教室」の中で紹介する。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>「水源森林教室」を 2 回、次の通り実施した。</p> <p>1 回目 8 月 6 日(木) 10:00~13:00 山北町世附 参加者 16 名 スタッフ 4 名</p> <p>2 回目 10 月 25 日(日) 10:00~13:00 山北町世附 参加者 15 名 スタッフ 4 名</p> <p>2 回とも小学生とその保護者が参加した。水源にあたる川の水質を参加者自らが調査し、水質が良好に保たれていることを確かめた。当研究所が毎月調査している水質データを示すことで参加者が水源地域の現状を他の地点と比較しながら具体的に把握できたと思う。また、川の中に入って遊んだり、水棲昆虫を食品トレイを使って採取したりして、水源地域の自然を満喫することができた。今年度は教室の中で都市部の水道水、地方部の水道水、ミネラルウォーターの 3 種類の水を用意しテイスティングを実施した。同じ水でも味に微妙な違いがあることが体験できた。</p> <p>普段は「水質調査」という地道な活動に終始している研究所の会員もこの「水源森林教室」を実施することで自分たちのやっていることが参加者に受け入れてもらえ、高い満足感を得ることができた。また、リピーターの参加者は以前の川の様子と比較して変わった所や変わっていない所などを話し、よく覚えていてくれた。</p> <p>「水源ワクワク水質調査」次の通り実施し、水源森林教室に生かせるデータを蓄積することができた。毎月の水質調査の結果は別紙の通りである。7 年間にわたって実施してきたが、上流部では良好な値が維持され、中流域では汚染の疑われる値が継続している。</p> <p>4 月 7 日…3 人、5 月 16…3 人、6 月 3 日…2 人、7 月 3 日…4 人、8 月 17 日…3 人、 9 月 18 日…3 人 10 月 17 日…2 人、11 月 9 日…2 人、12 月 24 日…3 人、1 月 18 日…3 人 2 月 20 日…4 人、3 月 30 日…3 人 12回 35人 計14回 74人</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p> <p>なし</p>	

- ※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。
- ※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。




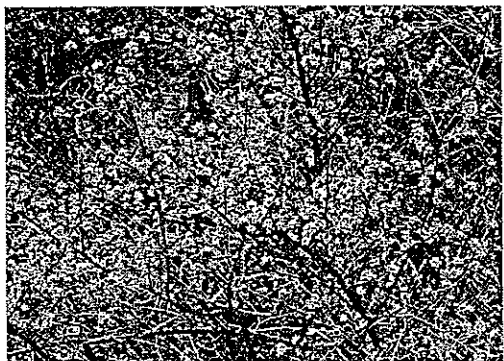
事業結果報告書

事業名	森林の保全・再生事業
団体名称	戸川森づくりの仲間
実施期間	2015 年 4 月 1 日 から 2016 年 3 月 31 日 まで
実施場所	県立秦野戸川公園内Cエリア
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>森林は、人の手が入らずにいると、ツルやツタなどに覆われたり、台風や強風、雪害などで折れた木や枝がそのままになり、鬱蒼とした暗い森林になっていきます。 暗い森林になると草が生えなくなり、表土が雨などにより流れたり、土砂崩れの要因の一つになります。</p> <p>県立秦野戸川公園は、山岳スポーツセンターも隣接し、登山口(登山道入り口)にもなっています。公園内の森林に人の手を入れる事により、公園利用者はもちろんの事、近隣にお住まいの方、登山愛好家などにも気持ち良く過ごせてもらえます。</p> <p>PR方法としては、看板の設置や積極的な声掛け、イベントへの出展時にPRをいたします。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>予定していたCエリアの作業も何とか終わりました。 予定していた間伐や下刈り作業も事故無く終わりました。 全体的に見通しも風とおしも良くなり、森自体も陽が差し込む明るい森になりました。 道路から見えるエリアのため、キレイになって良かったと思います。 ヤマビルの減少したかどうかはもう少し暖かくなならないとわかりませんが、作業場所をシカが歩いた足跡があったので、どうでしょうか。 来期も補助金をいただく事になりましたが、新しい作業場所になり、ますます道路から見やすい、荒れていると目立つ作業場所なので、道路側から見える景色を確認しつつ、活動していきたいと思っています。</p> <p>延べ活動日数 16 日 延べ活動人数 99 人 整備面積 1.08ha</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p> <p>無し</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

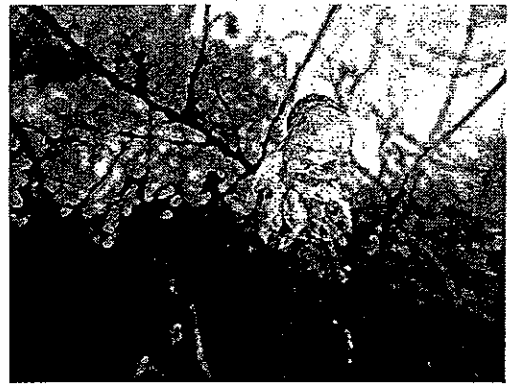
戸川森づくりの仲間 作業日誌

活動日	2016年3月10日(木)	活動時間	9:00~14:00	
整備エリア	Cエリア			
参加者氏名	藺田、北村、小川、江頭、古館 (計5名)	報告者 写真提供	古館	
	<p>天候：曇りのち小雨 (前日は大雨が夜中まで続いたが、翌日は曇りのち晴れ間ありの予報を信じて実施) 安全目標：足元注意(雨上がりで滑らないように)</p> <p>〔活動内容〕 Cエリアには間伐すべき曲がり木2本を残すのみとなり、Bエリアにマーキングしたスギの大木2本あったので、これを伐倒した。 ・スギ(胸高直径25cm)：北村、小川が担当。枝払いまで。 ・スギ(胸高直径28cm)：江頭、古館が担当。枝払いまで。 藺田技術部長は全体を統括し、要所要所を指導・支援した。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>小川さんと北村さん</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>江頭さんと古館</p> </div> </div> <p>間伐作業は午前中2本に留め作業を終了とした。</p>			
本日の成果	間伐除伐：2本	枝打ち：0	その他：0	
本日戸川公園で見かけた自然	<p>間伐作業後、4月からの新作業エリアに出かけ、新エリアを確認した。エリアの終わった奥のお寺(白泉寺)の境内に、珍しい木が沢山植わっており、きれいな花をつけていたので、いくつか紹介する。我々5人が無断で境内を散策していると、お寺の住職が出てきて、ジュークを頒発しながら花の説明をしてくれた。感謝感謝でした。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>マンサクの花</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>サンジュク</p> </div> </div>			

戸川森づくりの仲間 作業日誌



ロウバイ (日本古来のもの)



トサミズキ



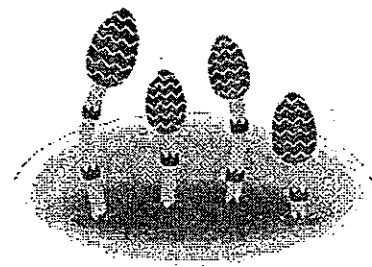
ワビスケ(ピンク：珍しい種)



カンヒザクラ(八重：珍しい)



オウバイ (中国では迎春花と呼ばれる)



申し送り 連事項

次回、3月26日(土)は今年度最後の戸川公園作業となり、これまで2年間行ってきたCエリアの作業は終わりとなる。かかり木となりそうな曲がった2本の木があるので、多くの参加者を望む。また、3月10日に倒した木をチェーンソーで玉切りするので、チェーンソー使いの参加も望む。

事業結果報告書

事業名	中井町里山再生事業		
団体名称	なかい里山研究会		
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から	平成 28 年 3 月 31 日まで	
実施場所	中井町井ノ口字藪山地区の山林		
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>1. 中井町井ノ口字藪山地区山林は、長年放置されているため荒廃が進んでいる。適正な間伐および下刈りを行い、森林および水源環境の保全・再生を図る。</p> <p>2. 間伐した材は、シイタケのホダ木や炭焼き、薪材などに有効に活用する。</p> <p>3. 地元公民館等と協力し、ホダ木づくりや炭焼きの里山の作業に参加・体験してもらう。</p> <p>原則として第 2 金曜日と第 4 土曜日を基本に活動し、年間 22 回以上、延べ 240 人以上の参加を見込む。</p>			
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>年間作業日は、30 回 延べ 313 人となり当初の計画を上回った。今年度は間伐材も増加したので、定例活動日(第 2 金曜、第 4 土曜)以外に不定期の臨時活動日を設けて間伐などの作業と共に薪割りや炭焼きを行った。また、新規加入会員もあって充実した活動ができた。炭焼きは 6 回実施した。</p> <p>計画の 1.03-ha は、会員の積極的な参加のもとに整備を完了した。</p> <p>普及啓発・教育事業として、全労災および井ノ口公民館の協力を得て、シイタケのホダ木体験教室を 2 月 19 日(全労災共催 参加者 15 名)および 3 月 12 日(公民館共催 参加者 20 名)の 2 回開催し、ホダ木への植菌や木炭の窯出を体験し好評を博した。</p> <p>例年、体験教室参加者から当該里山研究会に入会する方が増えていて、今回の参加者からも 3 名の方が入会を申し込んで来ている。</p>			
【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】			

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	中津川仙台下河原環境保全・再生事業
団体名称	中津川仙台下クラブ
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	愛甲郡愛川町角田字仙台下河川敷及び隣接保全区域
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>【目的】</p> <p>近年の自然状況の変化と宮ヶ瀬ダム建設等により、中津川の河川敷は草や樹木が生い茂り、この領域に足を踏み入れるのが不可能な状態となり、流れ着いた生活ゴミ等が堆積し水源環境の悪化や害獣・害虫の棲息拡大が憂慮されている。このため、不要な樹木(特にニセアカシア等)を伐採し草刈りを行って本来の自然環境を取り戻し、水源環境を保全し市民が憩える場所、青少年を主とした自然環境育成教育の場として利用できる環境造りを目指す。</p> <p>【27 年度の目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 仙台下河原約 5.4ha は、26 年度で一通りの整備(伐採)が完了したため、27 年度からは長期計画で保全作業の効率化のための「整地」を重点に取り組むが、草刈り、や重機を使った整備は恒常的に行う。 河川敷の小川を整備し、堆積しているヘドロの浄化を手掛ける。 隣接する保全区域の傾斜地に生えている大木を「崩壊防止対策」として伐採する。 	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 27 年度事業は目標とした内容は全て完了し、以前の形態からは見違えるほどに整備が出来近隣の評価も高まって来た。 整備済の場所も「切株」が残っているため毎年新しく木が生えて来るので伐採し、草も生い茂ってくるため繰り返し草刈りを行った。 河川敷内の小川の整備の継続により泥の堆積が減少して水源環境の保全が図られてきた、この結果「ホタル」が自然発生したので継続して整備を行って行く。 河川保全区域の傾斜地に生えていて崩壊や倒壊の恐れのある大きな樹木の伐採や、生い茂った竹の間伐を行った。 毎年発行している広報誌「中津川の水源地環境を復活させよう」のほかに「活動報告書」のリーフレット 1000 枚を新しく発行し、作業区域利用者や各種イベント等で配布して、活動内容や「水源地環境保全税」への理解を更に広めた。 「会員増員計画」では、『田んぼ部会(休耕田減少対策と水田作業に興味のある人で「当クラブの会員となって両方の作業を行う」事を条件)』の応募者が増え、当初 38 名が 43 名と増えた。 作業安全対策では、補助金により「安全衛生教育講習会」に多くの会員を受講させる事が出来、現在刈払機 9 名、伐木 8 名が受講済で小型車両系(整地等)も 2 名実施して今年度も無事故で活動が出来ました。 <p>* 補助金の支援を頂き 4 年が経過しました、お陰様で活動も軌道に乗ってきました、今後の「活動の継続」が見通せるようになり、会員一同大変感謝しています。</p> <p>【作業実績】</p> <p style="text-align: center;">12 日</p> <ul style="list-style-type: none"> 延べ作業人員 445 人(会員 418 人、会員外 37 人) (実作業のみ) [全体作業 毎月第 4 日曜日、 個人作業 随時] 	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p> <p>50 万円以上の物品はありません。</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

第16号様式 (用紙 日本工業規格 A4 縦長型)

事業結果報告書

事業名	中井町・愛川町竹林再生事業					
団体名称	特定非営利活動法人 日本の竹ファンクラブ					
実施期間	平成27年4月1日から平成28年3月31日まで					
実施場所	中井町半分形、愛川町角田					
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p><森林の保全再生事業>かつては生活の必需品として使われた竹も近年は、放置され荒れるに任せている。中井町、愛川町も例外でなく、荒廃した竹林は自然環境を破壊するだけでなく里山の生態系をも変えようとしている。当事業はもはや所有者の手に負えなくなった荒廃竹林を都市住民との交流を通じた市民参加型の取組で竹林を再生し、自然環境の保全と地域の活性化を図ることを目的とする。</p> <p>(1) 中井町半分形地区では竹林の間伐、チップ化作業を19回実施する。 ◆参加予定人数220人、◆整備目標3,5ha。</p> <p>(2) 愛川町角田地区では竹林の間伐、チップ化作業を4回実施する。 ◆参加予定人数150人、◆整備目標0,5ha。</p> <p><普及啓発・教育事業>次代を担う小学生及び保護者の方々が、県内の水源環境の保全再生活動から生じる竹材を楽器に加工・活用し、その楽器演奏を一般の方々に披露することによって、水源環境の保全・再生の意義について理解を深めるとともに子供たちの健全育成を図る。</p> <p>◆スタッフ延べ80人、ワークショップ5回、延べ参加予定人数80名。音楽祭入場者60名を予定。</p>						
【事業の成果】(結果)						
実施日	場所	活動名称	参加者	会員	会員外	面積
4月9日	中井町	竹林の間伐	11	10	1	0.3ha
4月23日	中井町	竹林の間伐	8	6	2	0.2ha
5月7日	中井町	竹林の間伐	9	6	3	0.2ha
5月21日	中井町	竹林の間伐	10	8	2	0.3ha
6月11日	中井町	竹林の間伐	12	11	1	0.3ha
6月13日	愛川町	筍間伐作業	35	25	10	0.3ha
6月25日	中井町	竹林の間伐	10	8	2	0.3ha
7月4日	横浜市	ワークショップ1日目	19	6	13	
7月11日	横浜市	ワークショップ2日目	20	2	18	

7月20日	横浜市	ワークショップ3日目	21	5	16	
8月2日	横浜市	ワークショップ4日目	44	11	31	
8月8日	横浜市	ワークショップ5日目	34	11	23	
8月9日	横浜市	竹の音楽祭	122	15	107	
9月10日	中井町	雨天中止				
9月27日	中井町	竹林整備と味覚狩り	34	28	6	0.4ha
10月8日	中井町	竹林の間伐	9	7	2	0.3ha
11月2日	中井町	竹林の間伐	13	12	1	0.3ha
11月21日	中井町	竹林間伐とみかん狩り	31	30	1	0.5ha
11月28日	愛川町	竹林の間伐と野外料理	22	21	1	0.3ha
12月10日	中井町	竹林の間伐	14	11	3	0.3ha
1月14日	中井町	竹林の間伐と冬の施肥	19	12	7	0.3ha
1月24日	愛川町	竹林の間伐と野外料理	36	28	8	0.3ha
1月28日	中井町	竹林の整備と野外料理	14	11	3	0.5ha
2月11日	中井町	竹林の間伐	17	14	3	0.3ha
2月25日	中井町	竹林の間伐	14	11	3	0.3ha
2月27日	愛川町	竹林の間伐と野外料理	28	27	1	0.3ha
3月10日	中井町	竹林の間伐				0.3ha
3月24日	中井町	竹林の間伐				0.3ha
合計			707	333	374	

<森林の保全再生事業>

中井町については延べ17日間（9月10日中止）竹林の間伐、チップ作業を実施。

◆参加者計254名(会員210名、会員外44名)で竹林整備。

◆整備面積は3,5haを実施。

愛川町については延べ4日間、竹林の間伐、チップ化作業実施。

◆参加者計121名、(会員101名、会員外20名)。◆整備面積0,5haを実施。

<普及啓発・教育事業>

ワークショップ竹の音楽祭はワークショップ5日間、音楽祭を1日実施。

◆参加者(会員50名、会員外208名)の参加者によりワークショップ&音楽祭を開催した。

【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】

該当する物件はありません。

*事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

*調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

第 16 号様式(用紙 日本工業規格 A4 縦長型)

事業結果報告書

事業名	伊勢原市三ノ宮里山再生事業
団体名称	特定非営利活動法人 ファームパーク湘南
実施期間	平成27年4月1日から平成28年3月31日まで
実施場所	伊勢原市三ノ宮 1402-3、1405-1、1406 斎藤光明氏他所有の里山
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>伊勢原市三ノ宮地区の荒廃した里山の竹林を除伐整理し植生を回復させるとともに、ケヤキや楠木の広葉樹を守り、雑木を植林し、水源としての環境を守ることを目的とする。</p> <p>現在里山は数名の地権者が所有しているが、高齢化で手入れがされず大部分が荒廃し竹藪で覆われている。個人では管理しきれない里山をこの事業を行う事によって、整備し、植林を行い、里山として再生していく事ができると考えている。</p> <p>実施している箇所には、看板を設置し、同補助金を活用している事業であることをPRし、ホームページやチラシ等で、ボランティア募集を行う際も、同補助金を活用した事業であることをその都度アピールしていく。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>27年度は恒例の下草刈りから始め、竹林の除伐、間伐、雑木の伐採と植樹を行うと共にチップ一機を借用、搬入して伐採した竹、木をチップ化にして植樹後の木の廻りや麓の花壇の通路に敷くなどマルチとして活用しました。また物資の運搬が容易に出来るように山に入る通路拡幅整備及び、まだ中途ですが、尾根までの急坂を歩き易くする為と、崩れ防止に杭を打ち、伐採した竹を利用して山道整備を行いました。</p> <p>この事業を、今後も地権者始め、地域住民、支援者の方々の協力を得ながら継続することで美しい山がよみがえり、水源としての環境が守られていくと期待できる。</p>	
<p>【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

平成27年度 水源環境保全・再生市民事業支援補助金実施状況報告書

補助事業の執行状況

月日	曜日	内容	参加人数
平成27年			
4月2日	木	作業日程打ち合わせ	7名
16日	木	下草刈り 植樹	4名
19日	日	植樹	3名
23日	木	下草刈り	4名
26日	日	下草刈り 他	2名
5月14日	木	下草刈り	5名
31	日	山道整備	6名
6月14日	日	全体整備 伐採後の竹及び木 集積	6名
8月9日	日	下草刈り	5名
23日	日	山道整備	5名
9月24日	木	下草刈り	3名
27日	日	下草刈り	5名
			小計55名
10月1日	木	下草刈り 植樹苗 準備根回し	6名
4日	日	下草刈り 山道整備	5名
8日	木	下草刈り	6名
22日	木	下草刈り	5名
11月1日	日	下草刈り	4名
12月20日	日	下草刈り 全体整備 伐採後の竹及び木 集積	5名
1月7日	木	里山整備計画ミーティング	7名
10日	日	下草刈り 粉碎機(チップパー) 進入路整備	5名
17日	日	下草刈り 竹 木 チッパーにより粉碎処理	6名
2月7日	日	下草刈り 山道整備	6名
11日	木	下草刈り 山道整備 崩れ防止用杭打ち込み	7名
			小計62名
			合計 107名

23 回

事業結果報告書

事業名	心地よい森づくり
団体名称	森のなかま
実施期間	平成27年 4月 1日から平成28年 3月 31日まで
実施場所	
【事業の目的及び目標】(計画) <ul style="list-style-type: none"> ・手入れの行き届いていない人工林を枝打ち・除伐・間伐などを行うことで、動物・植物・人にとっても心地よい森を作る。 ・里山林の整備に努め、美しい久野再生に向けて力を注ぐ。 	
【事業の成果】(結果) 別紙	
【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

回数	日付	場所	活動内容	備考(参加者など)
2015年森のなかま活動予定				
1	4月12日	久野(亀の甲)	枝打ちおよび除伐・林内整理・午後から山見をした。	小清水・森・森山・小野寺(4名の参加)
2	4月25日	サポートセンター	総会	
3	4月29日	西武デパート	イベントへの参加	
4	5月10日	久野溪畔林	枯損木50本間伐・下草刈り・放置丸太切りを積むなど講習の助言の元作業を行う。	稲辺氏講習会(12名の参加)
5	5月24日		雨のため中止	
6	6月7日	荻窪第一・第二	山の手入れについて再度講師とともに確認し、草刈りや土留めを行う。	稲辺氏講習会(14名の参加)
7	6月21日	荻窪第一	林内整理	石川・小野寺・小清水・森・森山(5名)
8	7月12日	久野溪畔林	林内整理	石川・岩田・小野寺・小林・小清水・森・森山(7名)
9	7月26日	荻窪第三	ゴミ拾い・アオキの除伐川治いの除伐	雨のため中止
10	8月9日	久野溪畔林	イベントに向けて欠損木の整理及び林内整理	石川・伊東・小野寺・加藤・中山・廣川・山本(7名)
11	8月23日	検討中	中学生ボランティアとの活動(除伐・笹刈・ゴミ拾いなど)	中止
12	9月13日	荻窪第一	土留めの工事および大雨の後の各山回り	小清水・なかの・森・森山(4名)
13	9月27日	亀の甲	間伐・林内整理・材だし	雨のため中止
14	10月18日	馬の背	間伐10本・崩れたところの土留め	石川・加藤・小清水・中山・森・森山・山本(7名)
15	10月25日	亀の甲	間伐・林内整理・土留め	石塚・伊東・岩田・小野寺・小清水・小野・中野・森山・山本(9名)
16	11月8日	馬の背	雨だったが、29日のイベントに向けて、材の運び出しと話し合い。	伊東・岩田・小野寺・加藤・小清水・中山・森・森山・山本(9名)
17	11月22日	久野溪畔林	間伐4本と林内整理	伊東・小野寺・加藤・小清水・中野・森・森山・山口・山本(9名)
18	11月29日	市民活動スペースはなこ	オープンイベントに参加	伊東・小野寺・加藤・小清水・中野・森・森山・山口・山本(9名)
19	12月23日	馬の背	山主さんと境目の確認・間伐10本	星野・加藤・小清水・水津・森・森山・山本(8名)
20	1月10日	馬の背	間伐13本(枯損木がねらった方向でないときに行き、びっくりした。)	伊東・岩田・小清水・小林・中野・山本(6名)
21	2月21日	久野溪畔林	間伐・製材・林内整理	廣川・石川・伊東・小野寺・加藤・小清水・小林・森・山本(9名)
22	3月6日	久野溪畔林	間伐・林内整理・材だし	廣川・石川・伊東・小野寺・加藤・小清水・小林・森・山本(9名)
23	3月13日	久野溪畔林	間伐・製材・林内整理	廣川・岩瀬・小野寺・加藤・小清水・小林・水津・中野・森・森山・山本(11名)
24	3月27日	久野馬の背	間伐した後に、チェーンソーで製材。	岩田・小野寺・小林・中野・中山・森山(6名)

* 午後の作業を必要とす日 13時~14時半 15時解散

小田原駅 西口 早雲像前 8時30分

岩瀬宅 8時15分(資材を積み込む)

現地 8時50分

荻窪・久野馬の背・亀の甲・久野溪畔林

原則として 森のなかまの活動日は 第2・第4日曜日...検討

集合場所・時間

活動場所
活動日

18回 森 / 14分

第 16 号様式(用紙 日本工業規格 A 4 縦長型)

事業結果報告書

事業名	秦野戸川公園森林整備事業
団体名称	森のなかま 2012
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	秦野戸川公園 (秦野市堀山下 1513)
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>秦野戸川公園内の杉、桧の人工林や竹林、雑木林の適切な管理のもと、豊かな森林を育て、人と自然が共生できる環境を整備することを目的とし、平成 27 年度は A、B、C 3 区域の B 区域を杉、桧の間伐枝打ち、倒木・枯木処理、土留め作業、下草刈り、ツル切り等を作業計画書にもとづき活動回数 12 回、参加人数 120 人を予定し秦野戸川公園森林整備事業を計画しました。今年度は 3 カ年計画の最終年度であり新しい活動区域を決定する予定。また、勉強会、チェーンソー研修会、ブラッシュアップ研修会の参加、地域ボランティア団体との交流会の参加を計画しました。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>活動計画書は B 区域 3 カ年計画の最終年度と位置づけ 4 月から実行した結果、予定どおり森林整備作業を実施し終了しました。</p> <p>総活動回数 13 回、総参加人数 76 名参加し、杉、桧の間伐、枝打ち、倒木・枯木処理、土留め作業、下草刈り、ツル切り等を作業計画書にもとづき作業を実施しました。</p> <p>また、危険有害業務従事者安全衛生教育(安衛法 60 条の 2)のチェーンソーによる伐木等業務の研修(10 名参加)を開催し終了しました。</p> <p>(公財)神奈川県公園協会主催の第 10 回秦野戸川公園祭りに参加し県民の皆様へ間伐材を使って実際に鋸で丸太を切って体験していただきその際、水源環境保全・再生施策の事業であることの PR を行った。</p> <p>1 年間安全を第一に、無事故で秦野戸川公園森林整備事業を終了したことに感謝し、平成 28 年度も継続して実施する予定です。</p> <p>また、平成 28 年度活動地区「森の自然観察ゾーン」の調査検討を(公財)神奈川県公園協会の園長と実施しました。森の自然観察ゾーンを A~F・Z 7 地区に分け 28 年度は A 地区を実施場所と決定しました。</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	「谷戸塾」「父と子の里山体験」		
団体名称	特定非営利活動法人 山崎・谷戸の会		
実施期間	平成 27 年 4 月 19 日から 平成 27 年 3 月 13 日まで		
実施場所	鎌倉中央公園		
【事業の目的及び目標】(計画)			
<p>谷戸の保全、再生を目的とする保全活動継続の為に会員全体のスキルアップ、人材育成が必要である。「谷戸塾」にて雑木林の実践作業と座学による通年の講座を開催する。7 期目を迎え、会員相互の学びあいのある内容となるよう中身を充実させていく。作業の講座にて荒廃した雑木林再生の実践、座学の講座にて谷戸の水源から神奈川水源の保全までの解説をし、水源保全へ結びつけた活動の理解を深めることを目指す。若い家族に好評の保育付講座をさらに充実させ多世代参加型事業実地にて水源保全活動を通じた次世代の地域コミュニティーを定着させる。活動により神奈川県水源保全への意識を高め、活動意欲の向上を期待する。「父と子の里山体験」は作業を通し親子で水源保全について考察するもので、市広報誌にて参加募集し、一般市民への伝播を目的としている。いずれの事業も当補助金活用事業であるとチラシに明記、活動の際、解説は必須とする。</p>			
【事業の成果】(結果)			
<p>3 月中に年間作業内容調整、道具整備、4 月 12 日オリエンテーションにて参加者申し込み受け付けを行った。谷戸塾雑木林の作業講座 13 回実地し、参加者は合計 184 人になった。耕作地周辺の草刈り、雑木林の手入れ、間伐材も行った。谷戸塾座学講座を 7 回実地し、参加者は合計 170 人になった。毎回谷戸塾開催時は乳幼児を含む保育を行った。父と子の里山体験は 3 回実地、荒天のために中止の日もあったが、予約は毎回キャンセル待ちがいるほどで毎回多くの親子が集まった。合計 60 名の参加となった。</p>			
<p>谷戸塾 雑木林作業 13 回 実施 ✓</p>			
1 回	4/19 「斧で薪割り」	参加者 19 名	2 回 5/17 「鎌を研いで水源の草刈り」 参加者 12 名
3 回	6/21 「水源・溜池土手の手入れ」	参加者 14 名	4 回 7/19 「草刈りして堆肥をつくる」 参加者 15 名
5 回	8/16 「草刈りして水源の水路整備」	参加者 11 名	6 回 9/13 「刈払い機で水源の草刈り」 参加者 14 名
7 回	9/27 「稲刈り前の水路の草刈り」	参加者 16 名	8 回 10/4 「雑木林の下草刈り」 参加者 12 名
9 回	12/6 「雑木林の除間伐」	参加者 8 名	10 回 1/10 「雑木林・水源の調査・測定」 参加者 16 名
11 回	1/17 「竹の伐採」	参加者 18 名	12 回 2/7 「園内と水路の整備」 参加者 14 名
13 回	3/6 「山作業用の道具の手入れ」	参加者 15 名	
<p>講座 6 回 実施 ✓</p>			
1 回	4/24 「神奈川県の水源環境と谷戸とは」		参加者 26 名
2 回	6/21 「神奈川県の水源環境と谷戸の生き物」		参加者 20 名
3 回	7/5 「神奈川県の水源環境と谷戸の植物観察」		参加者 17 名
4 回	12/6 「神奈川県の水源環境と雑木林の管理」		参加者 25 名
5 回	12/20 「山崎の正月飾り作り継承」		参加者 40 名
6 回	1/24 「神奈川県の水源環境と昔の谷戸」		参加者 20 名
7 回	3/6 「神奈川県の水源環境・市民活動と里山保全」		参加者 22 名
<p>父と子の里山体験 3 回 実地 ✓</p>			
1 回	11/22 「伐って、割って、薪作り」	参加者 30 人	
2 回	2/14 「伐った木でしいたけ原木作り」	参加者 2 人	
3 回	3/13 「竹でお椀と箸作り」	参加者 28 名	
【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】			

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	森林の保全・再生事業					
団体名称	湯河原森のなかま					
実施期間	平成27年 4月 1日から 平成28年 3月31日まで					
実施場所	足柄下郡湯河原町鍛冶屋字辰沢954-5					
【事業の目的及び目標】(計画)						
<p>県西に位置する湯河原は、箱根外輪山に囲まれ自然豊かな環境にあります。それを支える森林は緑のダムとして豊かな水を提供し、また酸素を作り出し心身に安らぎをもたらし、更に土砂流出などの災害から私たちを守る働きがあります。しかしここ数十年安価な外材が大量輸入され国産材が太刀打ちできなくなったため、林業活動が停滞し全国津々浦々で森林の手入れが進まず荒廃を招くことになりました。「湯河原森のなかま」の活動エリアも同じ状況下にあるため、森林保全・再生活動を実施します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 活動エリア1.29haで268本間伐を目標とする 2. 県指定「土砂流出防備保安林」のため、間伐材は枝払い後、玉切りし移動・運搬し等高線に沿って切り株・立木に固定し、保安林としての機能を高める 3. 補助金を活用し備品等を充実し目標達成を目指す 4. 安全第一の活動とするため、安全啓発活動・チェーンソー講習会を実施する 						
【事業の成果】(結果)						
<ol style="list-style-type: none"> 1. 間伐 220本 (達成率:82% = 1.06ha相当) ☆ 会発足以来、累計本数1,000本達成 						
年度	H27	H26	H25	H24	H23	H22
間伐本数	220	182	129	166	147	166
累計	1,010	790	608	479	313	166
<p>活動回数:33回(延べ244時間)、参加人員:92人</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. 「土砂流出防備保安林」機能を高めるため、等高線上に沿って整理・再配置済み 3. 補助金で備品や消耗品を補充し順調に活動ができた 4. 林野庁「林業安全コラム」、林災防協会「災害発生状況」などの情報を取得し、会員へ啓蒙活動を実施し年間無災害記録達成 チェーンソー講習会(H27.6.13~14)を実施し、スキルアップと“慣れ”による事故防止を徹底した 						
【購入した50万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】						
該当物件無し						

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	森林の保全・再生事業 竹を活かすヤマ仕事
団体名称	特定非営利活動法人よこはま里山研究所
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	神奈川県足柄上郡中井町松本 300-1 字 堂山 284、285 字 寺の脇 305-1
<p>【事業の目的及び目標】(計画)</p> <p>本事業が対象とする竹林は、地権者による手入れが行き届かなくなったために、水源環境としての機能低下と貴重な里山生態系の劣化を招いているだけでなく、いまや生産農家が所有する農地にまで竹が侵食し、地域の農業にも脅威となっている。この問題を解決するために本事業では、管理されずに荒廃した竹林において、ボランティアを募りながら継続的に保全活動をおこない、水源環境の保全・再生および地域活性化への貢献を図ることを目的とする。</p> <p>本事業について HP やメルマガなどで広報する際、同補助金事業であること明記して PR に努める。</p>	
<p>【事業の成果】(結果)</p> <p>整備面積 0,4ha ✓</p> <p>計 10 回実施 のべ参加人数 79 名 (参加者 69 名 スタッフ 10 名)</p> <p>継続的に竹林の整備を行う事で、竹の繁殖による水源林の荒廃を抑制する事ができた。</p> <p>また、間伐により林内に陽射しが差し込み、林床を豊かにする事で筍の収穫量も増え、地域へ貢献する事ができた。</p> <p>ホームページで事業成果を報告したり、メルマガジンにて参加者を募ることで、都市住民の参加者を増やす事にも繋がった。</p> <p>参加者の中にはリピーターとして定着し、定期的に活動へ参加するものも増えている。</p> <p>実施事業の詳細については、添付資料「事業実施報告」を参照</p>	
【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業結果報告書

事業名	間伐材の利活用促進事業 もったいないから竹細工
団体名称	特定非営利活動法人よこはま里山研究所
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から 平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	横浜市南区宿町 2-40 団体事業所
<p>【事業の目的及び目標】 (計画)</p> <p>竹林の間伐を実施しても、竹材をその場に放置すれば、水源環境は改善されない。本事業では、水源地域の竹林保全・再生活動で伐出された竹材について、竹細工や竹灯笼などを製作することによって、有効に活用することが目的である。また、地域のイベントに製作した作品を出展することで、主として都市住民に向けて、水源環境を整備する必要性と地域資源を有効に活用することの社会的な意義を伝え、中井町における竹林の保全・再生事業への参加を促すことも重要な目的である。竹材の利活用や普及啓発と竹林の保全・再生を組み合わせ、一体化した事業として推進していくことにより、安定して活動を継続できると期待できる。</p> <p>本事業について HP やメルマガなどで広報する際、同補助金事業であること明記して PR に努める。</p>	
<p>【事業の成果】 (結果)</p> <p>間伐材の加工環境を充実させる事で、加工作業の効率化および間伐材用途の幅を広げる事ができた。</p> <p>また竹籠教室を通じて間伐材を利用する事で、材の加工に興味を持ち、都市住民が保全・再生事業へ参加する機会を作る事もできた。</p> <p>【もったいないから竹細工 (竹かご教室)】 計 12 回実施 参加者：のべ 140 名(参加者 116 名 スタッフ 24 名)</p> <p>【もったいないから竹細工 (工房&作業)】 計 12 回実施 参加者：のべ 154 名 (参加者 130 名 スタッフ 24 名)</p> <p>各事業の詳細については、添付資料参照「事業実施報告」を参照</p>	
<p>【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】</p>	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

事業実施報告

竹を活かす山仕事【森林の保全・再生事業】技術指導 宮原正樹

		参加者	スタッフ	内容
4月	19日	6	1	筍堀 間伐および材の搬出作業
5月	17日	7	1	間伐および材の搬出作業
6月	21日	6	1	間伐および材の搬出作業
7月	19日	7	1	間伐および材の搬出作業
8月				お休み
9月				お休み
10月	18日	5	1	間伐および材の搬出作業
11月	21日	10	1	間伐および材の搬出作業
12月	20日	6	1	間伐および材の搬出作業
1月	17日	6	1	間伐および材の搬出作業
2月	21日	8	1	間伐および材の搬出作業
3月	20日	8	1	間伐および材の搬出作業

69 10

竹かご教室【間伐材の利活用促進事業】講師 中元秀幸 アシスタント 山口和義

		参加者	スタッフ	内容
4月	11日	10	2	四海波 水切りかごなど
5月	9日	10	2	四海波 菱四つ目 水切り
6月	13日	10	2	四海波 菱四つ目 六つ目丸口 水切りなど
7月	11日	11	2	四海波 収穫かご
8月	8日	10	2	四海波 六つ目かご 収穫かご 菱四つ目
9月	12日	8	2	四海波 収穫かご
10月	10日	10	2	四海波 麻の葉
11月	14日	9	2	四海波 収穫籠など
12月	12日	9	2	四海波 麻の葉かご など
1月	9日	9	2	四海波 麻の葉 収穫かご
2月	13日	10	2	水切り 収穫 菱四つ目 麻の葉 丸口 四海
3月	12日	10	2	収穫仕上げ 菱四つ目 水切り 麻の葉

116 24

竹細工工房【間伐材の利活用促進事業】講師 山口和義

		参加者	スタッフ	内容
4月	25日	8	2	竹ひご作り カトラリー作り
5月	23日	11	2	竹ひご作り カトラリー作り
6月	27日	12	2	竹ひご作り カトラリー作り
7月	25日	10	2	竹ひご作り カトラリー作り
8月	22日	9	2	竹ひごづくり かご編み準備
9月	26日	10	2	竹ひご製作 風車など
10月	24日	12	2	竹ひご作り かご編み
11月	28日	12	2	竹ひご作り
12月	26日	13	2	ミニ門松 カトラリー作り
1月	23日	12	2	竹ひご作り カトラリー作り
2月	27日	11	2	ざる編み ヒゴ作り 銚掛け
3月	26日	10	2	竹ひご作り カトラリー作り

130 24

		参加者	スタッフ	内容

0 0

事業名	水辺環境の整備と資源循環・環境保全型都市農業の創造
団体名称	NPO法人楽竹会
実施期間	平成 27 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで
実施場所	横浜市中区・瀬谷区・泉区・旭区、藤沢市
【事業の目的及び目標】(計画) 1) 目的 地域に残されている水と緑の自然環境の保全・再生に取り組むボランティア団体の参加者が高齢化・参加者の固定化・後継者不足等により実践活動の停滞要因になってきている。地域の小さな実践活動を通じて、現状の課題を解決するための施策の一端を担う。 2) 目標 ① 荒廃竹林の整備事業・・・ ② 水辺環境の整備事業・・・ ③ 環境学習支援事業・・・ ④ 土壌改良実験・・・ ⑤ 広報活動・・・ 3) 計画 ① 整備作業 (2 か所)、間伐竹の粉碎作業 ② ホタルの里山の整備 (湧水路・傾斜地他) ③ 高校 (キャリア講座講師他) ④ 米軍基地返還青地な実験農場 ⑤ 市内各地のイベント会場	
【事業の成果】(結果) ① 荒廃竹林の整備事業 瀬谷区内 3 ヶ所の竹林の整備並びに間伐竹の粉碎作業 27 年 11 月～28 年 3 月の間に実施した。 ② 水辺環境の整備事業 ホタルの里山の湧水路の整備並びに傾斜面の土砂防止柵の設置に着手した。(次年度継続)。 ③ 環境学習支援事業 県立高校 1 年生対象のキャリア講座講師、県立養護学校生徒を対象にひょうたんの栽培・加工・展示を実施 (3 月：二俣川サンハート・10 月：日大藤沢) ④ 土場改良実験 米軍基地返還跡地内にある 100ha の広大な面積を有する農業専用地区内の 2 か所にある実験農場で、「資源循環・環境保全型都市農業の創造」をテーマに下記の事業に取り組んでいる。 その 1) 微粉碎した間伐竹を堆肥化・マルチング材に使用。 その 2) 各種野菜の比較栽培。 ⑤ 広報活動 1) : 機関紙「葉ずれの音」 2) : パネル展示会 その 1) 宮沢ふれあい夏祭り : 27 年 8 月～9 月 その 2) 県立瀬谷西高等学校絵祭 : 27 年 9 月 12 日～13 日 その 3) よこはま大さん橋フェスタ : 28 年 2 月 27 日～28 日 その 4) 瀬谷スポーツセンター祭り : 28 年 3 月 6 日 その 5) 瀬谷のまちとひと写真展示会 : 28 年 3 月 20 日 ⑥ ふれあい活動 実験農場で収穫した各種野菜類は近隣の高齢者施設等にご贈呈。	
【購入した 50 万円以上の物品名・取得価格・管理責任者】	

※ 事業実施状況がわかる写真等を添付すること。

※ 調査研究事業は、調査研究結果をまとめた報告書を添付すること。

27年4月～9月活動実績

項目	月 別					
	4月	5月	6月	7月	8月	9月
日 数	12	15	20	20	15	20
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 土壌づくり等 (通年) ・ホテルの里山 整備 (通年) ・野菜の植え付け ・種まき ・学習支援 (市内3学校) ・南瀬谷小入学式 ・瀬谷西高入学式 ・宮沢町内会総会 ・楽竹会総会 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 培養土搬入等 (通年) ・ホテルの里山 整備 (通年) ・瓢箪植え付け ・培養土搬入 ・学習支援 (市内5学校) ・こぐま園打合せ ・水辺愛護会総会 ・宮沢の森総会 ・作品展 ・南小オリンピック 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 竹チップ、 マルチング等 (通年) ・ホテルの里山 整備 (通年) ・県立瀬谷西高校 キャリア講座 (4回実施) ・学習支援 (市内5学校) ・ホテル鑑賞会 ・野菜の植え付け ・瓢箪植え付け 三ツ境養護学校 ・南小コメ植付け (160名) ・瓢箪栽培打合せ 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 堆肥の切りかえ等 (通年) ・腐葉土搬入 ・ホテルの里山 整備 (通年) ・横浜国大発表会 参加 ・ひかりの園夏祭 り参加 ・県立瀬谷西高校 評議委員会参加 ・学習支援 (6学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 野菜生育状況 比較等 (通年) ・里山整備 (通年) ・学習支援 (市内2学校) ・ふれあい夏祭 ・活動記録 パネル展示 ・納涼盆踊り 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 間伐材粉碎処理マ ルチング等 (通年) ・里山整備 (通年) ・活動記録 ・学習支援 (市内2学校) ・瀬谷西高校 檜祭 ・パネル展示 ・瓢箪収穫 (養護 学校) ・秋の例大祭
会 員 人	延べ25	延べ80	延べ50	延べ50	延べ25	延べ30
その他 人	・120人以上 学生、一般 多数	・200人以上 学生、一般 多数	・200人以上 学生、一般 多数	・240人以上 学生、一般 多数	・80人以上 学生、一般 多数	・100人以上 学生、一般 多数

27年10月～28年3月活動実績

項目	月 別					
	10月	11月	12月	28年1月	2月	3月
日 数	13	20	15	10	15	20
内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 (通年) ・里山整備 (通年) 一斉清掃 沈殿池設置 (継続) ・学習支援 (市内3学校) 日大藤桜祭 ・協働事業 小林住宅展示会 区民会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 (通年) 野菜収穫 緑肥播種 ・里山の整備 (通年) 湧水路補強 (継続) ・竹林整備作業 間伐・粉砕 ・学習支援 (市内5学校) 日大藤沢 (ワールドカフェ) ・協働事業 森の一斉清掃 ・農と緑のふれあい祭パネル展示 ・パネル展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 (通年) 野菜収穫 ・里山の整備 (通年) ・竹林整備作業 間伐・粉砕 搬出 (2件) ・ふれあい活動 高齢者施設へ野菜贈呈 ・学習支援 (市内2学校) 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 (通年) ・里山の整備 (通年) 門松設置 沈殿池設置 (継続) ・窯開き神事 ・山開き神事 ・瀬谷区仕事はじめ ・学習支援 (市内3学校) 瓢箪加工仕上げ 評議委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 (通年) ・里山の整備 (通年) 土砂防止柵設置 (継続) ・竹林整備作業 間伐・粉砕・搬出 ・ふれあい樹林意見交換会 ・学習支援 (市内3学校) ボランティア意見交換会 ・パネル展示 	<ul style="list-style-type: none"> ・農場の作業 (通年) ジャガイモ定植 緑肥切込み ・里山の整備 (通年) 水路点検 ・間伐竹粉砕 ・小中高卒業式 ・学習支援 (市内5学校) ・パネル展示 ・竹林フェア
会 員 人	延べ44	延べ70	延べ75	延べ50	延べ50	延べ50
その他	200人以上 学生(含大学生)、一般多数	200人以上 学生、一般多数	100人以上 学生、一般多数	200人以上 学生、一般多数	150人以上 学生、一般多数	200以上 学生、一般多数

43

339人

1,050人

年間 195日
599人(会員)
1,990人(会員外)

